

No.4 4.5.6
第102号
2018
平成30年6月20日発行



しほ

ガハナースローガン
新世紀・明日につなごう
奉仕の輪

We Serve

LIIONS CLUBS INTERNATIONAL

DIST.336-A

2017-2018



初心に振り返り取り組んだ1年

ライオンズクラブ国際協会336-A地区

地区ガバナー
川辺信郎

琴平町で大会スローガンの「藍〜Love〜のある国阿波へ みんなで手を挙げヤットサーヤットサー」をご披露してから1年、徳島らしさにこだわった演出を心掛け、大会委員会と27のホストクラブが中心となって準備をしてくださいました。年次大会の学びの場にも光を当て、従来の3分科会を6分科会に増やして充実し、一般会員にも参加を呼びかけました。各分科会では、充実した内容の活動事例報告を参加者が熱心に傾聴していました。

代議員総会後に設けたガバナー昼食会では、徳島の食材にこだわった食事や藍染ファッションショー、阿波踊りなど徳島らしさを堪能していただけたと思っています。

大会式典では来賓の方々や前夜の日韓親善国際交流の夕べで友好を深めた河明秀・朴蘭鈴総裁ご夫妻をはじめ354地区の皆さんにもご出席をいただきました。そして、合同奉仕活動となった「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」では、その目録を145クラブの代表として飯泉徳島県知事に贈呈し、お礼と感謝のお言葉を頂きました。





「ウィー」

国際会長デ

オペラ歌手の柚友恵子さまのライブの余韻が残る会場に
 スポットライトが当たり、関野邦夫ガバナーエレクトが入
 場され、ガバナーキーを伝達すると、大きな坂を越えたよ
 うな安堵感を覚えました。「閉会宣言・閉会ゴングを川辺信
 郎地区ガバナー、よろしくお願い致します」とアナウンス
 され、まもなく第64回地区年次大会のファイナルです。ガ
 バナー就任以来の出来事を思い起しながら演壇中央に向かい、
 万感の思いを込めて閉会ゴングを鳴らしました。
 年次大会を終えた今、「動けば何かが変わります。そして
 クラブのステップアップにつながります」と伝えてきました。
 クラブにより違いはあるが、何かが変わりつつあることを
 実感できた大会となりました。
 大会のためにご尽力いただいた皆様に厚く感謝致します。
 ありがとうございます。



contents

初心に戻り取り組んだ1年
 64回地区年次大会 2
 地区ガバナー年次報告 4
 キャビネットによる1年間総括 8
 リジョン・チェアパーソン任務を終えて 8
 委員会活動を振り返って 16
 クラブ周年行事 24
 レオクラブ訪問記 32
 骨髄ドナー登録の推進 36
 「ライフスキル教育」セミナー報告 38

表紙写真撮影
 江富久雄（北島ライオンズクラブ）





第64回地区年次大会を終えて



地区年次大会委員長
福山 守
(徳島城山)

4月8日、第64回地区年次大会の会場となるアスティとくしまには春の陽光が振り注ぎ、皆様の来場をお待ちしておりました。徳島らしさにこだわりの大会事務局が、そして27のホストクラブが準備に心血を注いだ大会の幕開けでした。

電子投票は叶いませんでしたが、バーコードを使い代議員の認証をスムーズにし、代議員分科会も3分科会を6分科会とし、各分科会の活動事例報告を充実させました。

代議員総会では、予定時間をオーバーするというハプニングもありましたが、議案審議、分科会報告などを行い、議案決議確認を終え、閉会いたしました。

ガバナー昼食会は12時から始まりましたが、徳島ラーメン、かきませずし、祖谷のそば米汁、そして阿波尾鶏や阿波ポークなど徳島の食材をふんだんに使ったメニューをご用意させていただきました。

また、皆様が歓談中には藍染めファツ

シヨショーをご覧いただき、ジャパンブルーと呼ばれる阿波藍の世界をお楽しみ頂きました。

ガバナー昼食会のもう一つのお楽しみは、やはり阿波踊りで、伝統のある娯楽平連が舞台上に踊り込み、男踊りに女踊り、岡連長のトークをお楽しみ頂けたと思います。

大会式典には飯泉徳島県知事などご来賓のご出席をいただき、川辺ガバナーの入場で厳かな式典が始まりました。川辺ガバナーの年次報告に続いて、ライフジャケットの目録が飯泉徳島県知事に贈られました。今期、最も力を注いだ336-A地区の合同事業の掉尾を飾ったと言えるのではないのでしょうか。

式典としては初の試みですが、二期会の柚友恵子さんのオペライヴを挟み、関野ガバナーエレクトが華々しく入場され、次期開催地も発表され、フィナーレを迎えました。

「藍のある国阿波へ みんなで手を挙げヤットサーヤットサー」を大会スローガンに皆様をお迎えし、徳島らしい大会にしたつもりです。

大会にご参加いただいた会員の皆様、大会運営に携わっていただいたホストクラブの皆様には、心からお礼と感謝を申し上げます。私の御礼のことばとさせていただきます。



徳島らしさをさせる大会を目指し



大会統括委員長
横手 晋一郎
(阿南)

「藍(Love)のある国阿波へ、みんな
で手を挙げヤットサーヤットサー」の
大会スローガンのもと「徳島らしさを
出せる大会にする」とのコンセプトで
準備を進めました。

式典には飯泉嘉門徳島県知事はじめ
多数のご来賓と145クラブ1800
名に及ぶ会員のご参加をいただいた。
式典では川辺ガバナーの年次報告の
後、今年度336-A地区の合同奉
仕事業活動として力を注いできた「四
国の子どもたちにライフジャケットを
贈ろう」の集大成として川辺ガバナー
から飯泉知事に目録が贈呈されまし
た。

ライオンズ世界入会式デーのセレモ
ニーでは、215名の新会員を代表し
て須見一仁(徳島城山L.C)さんのリー
ドで「ライオンズの誓い」を声高らか
に読み上げ、全世界のライオンとも
に入会を祝いました。

今回、式典の半ばでオペラ歌手のラ
イブを入れ、柚友恵子様のメゾソプラ

ノを堪能し、式典の緊張感から解放さ
れたひと時でした。

次期キャビネットへの引き継ぎセレモ
ニーもスムーズに出来ました。

ガバナー昼食会のメニューにはビュッ
フェの他に徳島ラーメンや祖谷のそば
米コーナーも備えました。特に徳島
ラーメンには長蛇の列ができ好評でし
た。「藍染めファッションショー」では、
徳島が誇る「藍」の魅力をしっかりと堪
能して頂けたと思います。また、阿波
踊りは娯茶平連に登場して頂き、正調
阿波踊りと岡連長の軽妙なトーク、会
場の皆さんの飛び入り参加もあり、大
いに盛り上がりました。徳島の伝統工
芸の藍染め体験のコーナーも設置し、
ハンカチの藍染めを体験し、お持ち帰
りいただきました。

今大会では代議員受付へのバーコー
ドの導入や代議員分科会の充実など改
革・改善に向けた意義深い大会でもあ
りました。当初企画していた「徳島ら
しさ」の実現にも成果があったと思っ
ています。

最後に、大会に参加していただいた
会員の皆様、大会運営を担当してい
ただいたホストクラブの皆様、そして、
役員の皆様に深甚の謝意を申し上げます。

地区ガバナー年次報告

たくさんの出会いと感動に感謝

ガバナースローガン 「新世紀・明日につながる 奉仕の輪」

キーワード 「初心」

川辺 信郎

ライオンズクラブ国際協会
336-A地区 地区ガバナー



スローガンとして掲げた「新世紀・明日につながる 奉仕の輪」を胸に、アメリカ・イリノイ州シカゴで開かれる第100回国際大会に向かいました。シカゴでの4日間のセミナーは、私にとって過酷な時間でしたが、これまでの課題不安等を100%とはいきませんが、払拭するとともに、明日への勇気・自信が得られた貴重な学習の機会でした。

最終日の閉会式には、大勢の先輩や友人が応援にかけつけてくださり、真鍋隆前ガバナーが私の胸のエレクトリボンをはずされたとき、私はガバナーに就任いたしました。この時の感動が私の1年間の、336-A地区・単一クラブのステップアップのための始まりです。

ナレシユ・アガワル国際会長の「力を合わせ私たちは、奉仕という伝統を推進し、世界を皆のためにより良い場所に、今後何世代ものライオンズに奉仕という遺産を末永く残していきましょう」との提唱が、私自身にとって336-A地区のために「精一杯働こう」との決意をより強くし、就任以来、今日まで経過してまいりました。

運営基本方針の中核である、各単一クラブは「会長を中心として 初心に返り、和（互いとのつながり・地域社会とのつながり）を基本に、輪（組織）の拡充を図るとともに、時勢に即応した改革・改善に取り組んでください」とお願いし、共に活動を実践してきました。

また「動けば何かが変わります。そして、クラブのステップアップにつながります」ともお願いをしました。

「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」には、地区合同事業として総てのクラブの温かいご理解とご協力、そしてご支援をいただき、達成されましたことを会員の皆様と共に喜び合いたいと思います。



1 GMT・GLT・FWT・会則について

今期、委員会方針として質の高い会員の1クラブ2名以上の純増、内1名は女性会員の招請をお願いし、336-A地区の女性会員を30%にこの目標を掲げました。新会員には奉仕への誇りと勇気ある活躍を期待し、会員名を記した記念楯を入会記念として贈呈いたしました。しかし、「家族と共に奉仕をしよう」との家族会員プログラムとは裏腹に、12月度に多くの子会員（2人目以降の家族会員）の退会現象が起きたことは、残念なことでした。

現在、各クラブにおいて純増目標の修正をし、会員増強に努めていただいているところです。

指導力については、各クラブで次代リーダーの発掘・養成に努めていただいております。人材育成・資質の向上を真剣に考えていると感じております。

2 MC・ライオンズ情報・地区誌・大会参加について

PRからMCに委員会名を変更し、各クラブにも名称の変更をお願いしましたが、さらにMCの概念の深耕が必要であろうかと思えます。

速報性のあるフェイスブックを利用するクラブが増えており、ライオンズクラブ全体の情報発信の量と多様性が広がっています。また、地区委員には積極的にOS EALフォーラムなどへの参加を呼びかけていただきました。

従来の地区誌編集委員会が合同委員会に加わり、キャビネット事務局と情報を共有し、私の思いを伝えやすくなった反面、編集会議などではかなり工夫が必要となりました。しかし、この新しい試みは、地区誌の新しい可能性を引き出すものだと思います。

3 青少年・LCIF・ライオンズクエストについて

今年度は次世代を担う青少年に夢と希望を与えるための様々な事業に取り組んでいただきました。また、時代のニーズに沿った新規事業も目立ちました。



レオクラブとの合同事業ではボランティア精神を育み、奉仕活動の幅を広げる機会を数多く提供いただきました。

50周年を迎えるLCIFは、MJFを含めて会員1人50\$を目標とし、多くのクラブにご協力をいただきました。特に会員数の少ないクラブからのご協力に、心から感謝申し上げます。

ライオンズクエスト「ライフスキル教育プログラム」の普及活動は3回のワークショップと2回のセミナーを開催していただきました。また、ライオンズメンバー対象のセミナーを各県別に開催し、メンバーの理解を深める良い機会となりました。今年度の国際平和ポスターコンテストの参加クラブは103クラブ、応募総数は4921点でした。青少年が平和について考える貴重な経験となったと確信しています。

4 環境保全・保健福祉・アットについて

今期の課題を自然災害に対する減災の方策の推進、とりわけ近い将来起きるであろう「南海トラフ巨大地震」への備えでした。336-A地区として子どもたちへの支援活動をしたいと計画したのが地区合同事業「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」への取り組みです。

この取り組みは各リジョンから選出されたRC・ZCはじめ代表者の皆様の積極的かつ意欲的な取り組みと、果敢なご英断により目標達成ができましたことに誇りとライオンズとしての喜びを感じているところであります。

また、保健福祉においても、五献運動（献血・献眼・献腎・献骨髄・臓器提供ドナー）に積極的に取り組んでおり、薬物乱用防止に対しましても同様であります。クラブ会員の皆様のご苦勞に深く感謝申し上げます。

5 YCE・ライオンズレオ・国際関係について

国際協会の重要なプログラムであるYCE事業では、夏期派遣生2名、受入生5名でした。336-B地区から5名の来日生を迎え、猛暑の中A・B地区合同のサマー



キャンプを開催していただきました。

徳島市内の高校生との交流会にはじまり、徳島の文化の体験など意義深いキャンプであったと確信しております。

冬期の来日生は4名で、B地区との合同ウインターキャンプとして岡山県いぶきの里スキー場で開催されました。岡山東国際レオクラブ会員12名の参加協力を得て、大変有意義な国際交流が図れました。

ホストクラブならびにホストファミリーの皆様には、大変お世話になり、感謝とお礼を申し上げます。

6 IT推進チームについて

336-A地区においては、4年前から地区のIT推進化計画が立てられIT推進チームとして地区のIT化に取り組んできました。その結果、キャビネットやクラブの事務作業を大幅に軽減した具体例を紹介いたします。

地区ホームページを新しくインターネット経由で報告提出できるようにし、キャビネット関連のイベントの登録をWeb上で行うことにより、集計が瞬時に行えるようにしました。

また、第64回地区年次大会では、代議員受付をバーコードで行うことにより待ち時間の大幅な短縮を実現しました。

IT推進チームは今後も地区やクラブの事務的な負担を軽減するために工夫を凝らし努力してまいります。

以上で各委員会活動の1年間のご報告とさせていただきます。

就任以来、これまで地区名誉顧問の皆様、キャビネットの役員、委員、クラブ会長、そして会員の皆様のご支援、ご協力のおかげでたくさんの方の感動をいただき、充実した日々を送ることができました。心から感謝とお礼を申し上げます。

1年間、ありがとうございました。

「幹事」や「山」は登り切れたか？



キャビネット幹事
佐藤 貢
(徳島すだち)

め」という思いで貫かれており、この視点に私たちも異論はなく、懸命なバックアップ体制で臨みました。

しかし、約6000名で組織された幹事職は、そう簡単には務まりません。それは会員一人一人の主観が毎日のように届けられるからです。準地区は組織であり人の集まりです。人が集まれば感情が絡み合い、同時に私の主観に居場所はありません。それぞれの主観を基にキャビネットとしての客観性を編集しなければなりません。この作業に多くの時間を費やしました。

同時に私は立ち止まることが許されませんでした。それは「ゆつくり考える」という時間を持たせてもらえない負の現実です。この諸事に忙殺される幹事がクラブへの奉仕者であり得るのか……。

「山より大きい猪は出ない」と言うが、本当だろうか、そりや、富士山より大きな猪は出ないにしても、その辺の小高い山ごときの猪は出るのではなにか……？ 怖い猪に出くわした時は私は336-Aを守るのだろうか、そんなエラそうな事と、不安がないまぜになつて出発したのが2年半前の4月、こんぴらキャビネットの年次大会で、川辺ガバナーが選任されてから本格始動となります。

私自身がキャビネット幹事にふさわしい者か否か、そんな事を考える間もなく、シカゴでガバナー宣誓式に立ち会います。川辺ガバナーの緊張した表情は、私にある種の「覚悟」を迫っていたような気がします。

川辺ガバナーはエレクト時代から地区に革新的な風を吹き込みます。小さな徳島キャビネットはその都度、加重なロードとなります。しかし、川辺ガバナーの視点はすべてが「準地区のた

ただ、質問、問い合わせにもっと真摯に対応できたなら、私の「幹事山」への登頂は成功したかもしれません。いま、7合目まで登って、私の幹事職はここまです。しかし、7合目まで押し上げてくださった会員の皆様、そしてキャビネット役員に感謝いたします。ありがとうございました。

1年を振り返れば感謝、感謝



キャビネット会計
宮島 直文
(徳島城山)

に思います。

初めて事を起こすのがこれ程大変な事かと改めて痛感したところです。

4月の地区年次大会においては、大会統括委員会・内局会・事務局会、8・9リジョンのサーククラブの協力により、全体としては上手く出来たように思います。

会計の大事な職務は三役の一員としてガバナー・幹事を支えていく、チームとしての事務局の和を考えていく、組織を円滑・スムーズにしていく、これが重要な役目だと思ってきましたが、私の出来る範囲で精一杯努力致しました。

それから事務局会、内局会・大会統括委員会、それに各会議と会議の多さにはびつくりしました。しかし、その位やらないとキャビネットの運営は出来ないのだと思います。

私は副幹事、それから事務局員の皆さまに色々と助けていただき、感謝、感謝です。もう一度やれと言われれば、即座にお断りいたしますが、やって良かったと思います。

最後になりましたが、次期道前キャビネットには存分の活躍をされますようお祈り申し上げます。1年間、ご協力ありがとうございました。

あつと言う間の1年でした。ガバナー公式訪問では、ガバナー・幹事のお供として9リジョン全てを回らせていただき、キャビネット会議等々の多くの会議を経て、他のリジョンの方々とも交流させていただきました。そこで色々なご意見を聞かせていただき大きな刺激を受け、キャビネットの一員でなければできない貴重な経験は、私の大きな財産となりました。

今年度はライフジャケットに始まりライフジャケットに終わった1年だったように思います。336-A地区では初めての145クラブによる合同事業でした。各リジョンへの説明会、リジョン・チェアパーソンへの協力要請、そして先行贈呈式とガバナー・幹事は大変な努力（労力・肉体的ストレスを抱えながらも）、先行贈呈式には参加の要請があれば全て出席したと思います。最初の頃は方針がうまく伝わらず、誤解も有りましたが、最後は各クラブのご協力により大きな足跡を残せたよう

あれもこれもと振り返る



副幹事（事務局長）
濱口 仁
（徳島 城山）

年次大会も終わり最終コーナーを回った今日この頃ですが、1年間の反省しきりの毎日であります。

川辺信郎第2副地区ガバナー時に副幹事・事務局長の就任依頼をお引き受けしてから、アツという間に約3年が過ぎようとしています。

宮島キャビネット会計、延副幹事、そして私の3名がガバナーと同クラブの所属で、当初は強い思いでガバナーを補佐、支援しなくてはとの覚悟での船出でした。が、事務局長としての重責を担う中で、諸会合のたびに視力、思考力、集中心力の減退を感じる事が多々あり、そのことを自覚せざるを得ませんでした。

幸いなことに佐藤キャビネット幹事のリーダーシップのもと、5名の少数副幹事ながらチーム力というか結束力で繋がり、それぞれが持ち味を發揮しつつ、ここまで何とかやってこれたことは、大きな喜びであり、また諸氏に大変感謝するところでもあります。

ガバナーの主唱する「スモールキャビネット」と「クラブのステップアップ」に事務局長としてどれだけ貢献できたか疑問が残りますが、今は少しでも早く終わりたい気持ちで一杯です。

336-A地区で初めての試みでありガバナーの当初からの念願である合同奉仕事業「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」は、様々な課題を相互理解のもとにクリアし、達成できたことはキャビネットのスタッフとして、またライオンズクラブの会員の一人として喜んでいくところです。

会合が重なりガバナーの代行として周年記念式典に出席し、緊張の中で祝辞を述べさせていただいたことも楽しい経験となりました。

私の担当委員会においては、何とか齋藤委員長を補佐することができたとありますが、最近の会員増強の難しさも知らされました。

任期も1ヶ月余りとなりましたが「新世紀・明日につながる 奉仕の輪」のスローガン達成に向け、スタッフの皆様と共に微力を結集して努力したいと思えます。

終わりに関係諸氏、クラブ会員の皆様に厚く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

縁は奇なもの 異なもの



副幹事（事務局次長）
坪井 詔一
（鴨島）

人との出会いは本当に、不思議なものがあります。私と川辺ガバナーのそれは、およそ40年前のソフトボール競技の審判員としてであります。縁あつてこのたびキャビネットのスタッフとして起用していただき、アツという間に私の任期もあと1カ月になりました。

第一副地区ガバナー期にあつては、ライオンズクラブ並びにキャビネットの職務についての基礎・基本を学ぶことができたことを自分自身の誇りと感得しております。

ガバナースローガンも決定され、ガバナー自身、地区のさらなる「ステップアップ」と「スモールキャビネットの創生」を目指し、初心に返って全力で取り組むとの決意をお伺いし、副幹事5名の少人数での出航にやや心細さを感じたものの、会合を重ねるごとに佐藤キャビネット幹事、宮島キャビネット会計、濱口事務局長、村木事務局次長、そして延・長尾の両副幹事全体的の方々が精鋭そのものであり、しか

も多種多才の持ち主であることが判明し、日増しに心強さを覚えたのです。

ガバナーが提唱される「動けば何かが変わります。そして、クラブのステップアップにつながります」に呼応して、私たち副幹事も精一杯、英知を出し合い動かなければと取り組んできたところです。

しかし、如何せん会合のたびに自身自身の思考・集中・発想力などの衰退を思い知らされました。

ガバナーが提起された地区合同事業「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」の説明会にガバナー・幹事に随行して、確か瀬戸内海を臨む2つのリジョンと記憶しておりますが、所属クラブの意見を集約されて、リジョン・チェアパーソンから「危険に直面している高知や徳島の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」との発言を拝聴して、強く感銘を覚えたことも経験いたしました。

私たちの非力さにより年次大会をはじめ各種会合においてご迷惑をお掛けしたことを誌面にてお詫び申し上げます。

結びに会員の皆様の温かいご支援ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。



副幹事としてやっぴいゴールへ



副幹事(事務局次長)
村木 弘次
(鳴門)

準備段階の初会合から足掛け4年になる副幹事もあと僅かとなりました。当初は少ないスタッフの内局が不安材料でしたが、年次大会と主な行事も無事終わり、何とか全員揃ってゴール出来そうです。

キャビネットの業務自体すべきことが多くあるので、全員が全てを共有するのはとても無理なことであり、自分の与えられた役割だけをこなせば良いと考えていました。

キャビネット会議の資料作成において、過去のものを参考に準備することが手間を省く手段かも知れませんが、中身を濃くすることが必要と考えて、ガバナーの了解を得て諮問委員会とゾーンレベル会員委員会の会議報告書を加えました。その結果、各ゾーンの活動状況、考え方や主催者の熱意を感じる事が出来ました。

アワードに関して、種類や授与基準等は内局全員で意見を出し合って決定しました。キャビネット主管の申請書

は全て目を通してから、詳細が分かる表を作成し、部門ごとに細かく審査して結論を出しました。前年度キャビネットから引継いだ申請書が意外と多いことにも気付きました。

担当である環境委員会の補佐も行いましたが、地区年次大会の分科会が今年度は委員会主導で行われたためにまた当日は副幹事として別の役割があったので、残念ながら分科会に出た事例発表の場に立ち会うことはできませんでした。

副幹事は他の役員、委員の活動と比較すれば責任感において少し楽かもしれませんが、何しろ全てを把握しておく必要があるのです。キャビネットに精通した事務局員がいることが大きな助けとなりました。

今期を振り返って見ると、互いの連携と必要とされる共有部分の認識やライオンズに対しての意識等に年間を通して集中出来なかったのが反省点となります。反面多くの業務に携わり、多くの人に接して、何とか役目を終えることが出来たのはスタッフ全員の協力と個々の奉仕精神の強さのお陰だと思えました。

年間を通じての皆様方のご協力に感謝申し上げます。

徳島キャビネットを振り返って



副幹事(地区誌担当)
延 善之
(徳島城山)

今期の徳島キャビネットは「スモールキャビネット」を目指し、副幹事は各委員会を担当・サポートし、私はYCE・ライオンズレオ・国際関係委員会担当となり、主に研修会の議事録係として参加しました。議事録係りも、これがないと会議を開いたことにもならない大事な役目でした。YCEは海外の若者を受け入れ、また日本の若者を海外へ派遣し、国際交流を深める国際的な相互理解の場でした。地区年次大会の分科会では、こうした貴重な体験のご報告を受け感動いたしました。

また、本年度徳島キャビネットを語る上で「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」という336-A地区合同奉仕事業活動は欠かせません。この事業は2017年7月の第1回キャビネット会議でご承認を頂き、当初はキャビネット主導型の合同奉仕事業として、いろいろご批判を受けました。この事業の理解を深めていただくため「キャラバン隊」と称し、全リジョ

ンで説明会を開催いたしました。私は8R・9Rと4R・5Rの説明会に参加しましたが、何故この事業を立ち上げたのかという企画説明、プロジェクトを使つての事業の意義と地域にもたらすであろう効果について、佐藤幹事が堂々と説明されました。

問題は多々あり、その一つは、どのRがどれだけ必要としているか、そしてどのような基準で配分するのかという数量の問題と、それに見合う資金など問題が山積みでした。

その後、この事業をより具体化するために、RC・ZCをメインに研修会(特別委員会)が7回開催され、私は5回程度議事録を取らせて頂きました。いろいろなご意見がありました。個人献金も含め協力は1150万6356円となり、1月9日の8Rの和田島小学校をはじめとして、先行贈呈式を行うことができました。ライフジャケット贈呈事業は、小学校1・2・3年生を対象に、各クラブの申請個数を基にRCを中心に調整していただき、3030着の配分が決まりました。

5月7日のキャビネット事務局会で、最終結果を確認できました。ご協力ありがとうございました。

出会い大切に役を終える



1R-RC
吉田 稔
(松山道後)

今思い返すと、リジョン・チエアパーソンを務めた日々は、長いようで短い1年でした。

リジョン・チエアパーソンの仕事は、4月から始まる地区役員研修会等の今期の行事予定の会場の確保から始まりまし。次いで2107・2018年度が始まった7月からの1R19クラブの例会訪問の日程の調節等リジョン運営の計画に手をつけていきました。

今期は、特に川辺信郎地区ガバナーより336-A地区全体の合同奉仕事業活動として「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」が提案されていきましたので、この達成を合言葉に、この活動を中心に地区全体が動いたように思えました。

私は3人のゾーン・チエアパーソンと共に例会訪問、ガバナー諮問委員会を通し、各クラブに合同奉仕事業の主旨を説明し、理解と協力をお願い致しました。無論、各クラブからは、さまざま

まな質問やご意見をいただきました。

紆余曲折を経ながらも合同奉仕事業「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」は、1R19クラブのご賛同をいただき、1月22日に翠小学校、下灘小学校、由並小学校でライフジャケット贈呈式を行うなど、当初の目標を達成することが出来ました。

合同奉仕事業『四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう』につきましては、達成感もあり、満足もしております。しかし、今日のライオンズクラブにとって一番大切な会員の増強につきましては、それなりに各クラブにお願いをし、努力も致しましたが、目標を達成することができませんでした。それどころか1Rにおいては、会員の減少という厳しい現実と直面しております。

任期を終えようとしている今になって思えば、もっともつと強く、各クラブに会員増強を訴えることが出来なかつたのかと悔やまれてなりません。

全体としてこの1年は苦しいこともありました。いろいろな人々との出会いがあり、話しをする機会もあり、楽しいこともたくさんありました。今は役を終えることにホットしている次第です。ありがとうございました。

あつとつ間の1年を振り返る



2R-RC
石川 正人
(川之江中央)

『迷った時は、より困難な道を選べ』。これは私の言葉ではありませんが、リジョン・チエアパーソンへの就任依頼の話があつた時、就任するか否かを迷う中、正に心の中に響いた言葉でした。

覚悟を決めてリジョン・チエアパーソンとしての活動を開始してから1年間というものの、1ヶ月、1ヶ月の流れが遅く感じられたものの、終わってみれば、あつという間の1年間でした。

川辺信郎地区ガバナーのスローガン『新世紀・明日につなごう 奉仕の輪』のもと336-A地区合同奉仕事業活動『四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう』を全145クラブが一致団結して3030着のライフジャケットを、今、最も必要とする小学校へ寄贈した功績に感銘を受けました。ライオンズムの精神が、不可能と思わせることを可能にしたと信じております。

2R17クラブへの例会訪問、記念式

典の参加等により各クラブの特徴、素晴らしさを肌と感じました。また、1Z〜4Zまでの諮問委員会に出席させていただいたことにより、各ゾーンの方々と友好を深めることができ、素晴らしい宝物を得たと感じております。

リジョン・チエアパーソンは、キャビネットの想いや願いをゾーンのメンバーに正確、且つ的確に伝え理解を得る。そして、各クラブ、ゾーンの要望、質問等をキャビネットへ伝え、その応えを伝えることが第一の役職と思っております。

この1年間、その責務が果たせたかどうかは自分自身ではわからない点多々ありますが、できる限りのことをした所存です。

また、次年度は地区ガバナーに2R・4Zの関野邦夫氏（東予ライオンズクラブ）が就任致します。それまでの盛り上げ役として活動にも拍車がかかった年でした。

最後になりましたが、共に活動して頂いた地区役員・委員をはじめ、ご協力をいただきました各クラブ会長・会員の皆様、事務局に厚く感謝しお礼を申し上げリジョン・チエアパーソン離任の挨拶とさせていただきます。1年間ありがとうございました。



宿題は残ってしまったが



3R-RC
大野 勝也
(大洲)

リジョン・チェアパーソンを引き受けた時、任期中の1年間は病氣、怪我、骨折などせず、元気で任期を全うしたいと思いました。

4月の次期役員研修会に始まり、第4回リジョン会議（引継会）など、任期の始まる7月以前より会合の連続で、1年間、体力が持つかと心配しました。

8月のガバナー公式訪問が終わった後、2か月がかりでリジョン内14クラブの例会訪問を行いました。3Rは愛媛県の南予地域にあり、徳島へは高速道路で片道3時間を要しますが、徳島往復を4回行いました。逆にキャビネットからもガ川辺バナー、佐藤地区キャビネット幹事には公式訪問、ライフジャケット説明会、野村・八幡浜みなど、伊方LCの3クラブの周年記念行事への出席と合計5回の出席を戴きましたが、体力的に大変であっただろうと推察いたします。

今期3Rの最大の宿題は、前期から

の申し送りであるゾーンの再編（3ゾーン体制から2ゾーン体制）を行う可否かでした。3ゾーン体制では、少人数のクラブの地区役員や委員の選出の負担が大きく、2ゾーン体制になれば、こうした点では楽になるだろうが、地域が広くなりゾーン内役員の負担が重くなるなどの意見がありました。

ゾーン編成アンケート調査の結果は、14クラブの内、今まで通りの3ゾーン体制が良いが7クラブ、2ゾーン体制が良いが7クラブという結果でした。3ゾーン案も2ゾーン案もそれぞれ一長一短があり、賛否半々でとなったでしょう。各ゾーン会で話し合った結果、少人数クラブの役員・委員の選出ではゾーン内で協力し合い、しばらくは今ままで通りの3ゾーン体制のままでやっていくこととなり、懸案のゾーン再編の結論はでませんでした。

リジョン・チェアパーソン就任の時、「3リジョンは和やかで風通しの良いリジョンでありたい。しかし、議論は活発に」をモットーに掲げました。

今、大過無く任期を終えようとしています。この間、共に活動して頂いた地区役員、委員の方々、14クラブの役員、会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

RCをして何かが変わった



4R-RC
蔵本 守雄
(高松源平)

川辺信郎ガバナーとは、彼がガバナーエレクトの時に高松市内の和風居酒屋「つるや」で、初めてお目にかかった。わがクラブの長尾和彦さんをキャビネットのIT担当副幹事に招請すべく、雪森会長の承諾を得るための来訪で、穏やかな物言いが印象的であった。その時、私は既に次期RCを引き受ける決心をしていたので、雪森会長の判断で紹介され、お目にかかったのだ。

地区役員研修会が済んで、様々なことをすべて自分で考え、実行していかなければならなかった。私のクラブは誕生して25年になるが、一人もRCの経験者がいなかった。RCは10数年に一回割り当てられ担当するのだが、RCが回ってきてても地区委員やZCなどが同時に割り当てられており、クラブではこちらを優先し、RCは全てパスしてきたためだ。

幸い2016-2017年度にZCを務めた新名泰博幹事にその経験を助言していただき、さらにRCの仕事も

手伝っていただき改めてお礼を申し上げます。

まずやらなければならないのは、準備リジョン会議、LT・TT・委員長オリエンテーション、第1回リジョン会議、ガバナー公式訪問の計画であった。これらの4会合が済むと時間の余裕が出来た。仕事とRCの活動を両立させなければならなかったため、日程の調整には苦労した。と言うのは、私は土日に仕事をしなければならぬことが多かったからである。

この点で一番残念だったのは、アワードの最終選考会に出席できなかったことである。3月に徳島で選考会が開催されたのは、金曜日であり、午後6時まで仕事があったのだ。欠席する私の代理を快く引き受けて下さったのはZの稲毛恵美子ZCであった。

また、直島小学校での336-A地区合同事業であるライフジャケットの先行贈呈式を計画し、実施して下さった稲毛恵美子ZCと直島ライオンズクラブの浜口敏夫会長に感謝いたしております。

4Rの各クラブのサポートを得て、RCの経験をし、実行力が強まったかなと自分を過大評価いたしております。

RCの役職は大変楽しかった



5R-RC
石川 裕之
(三豊)

『笑って暮らすも一生、泣いて暮らすも一生』。私はリジョン・チェアパーソンを拜命するに当たり、この言葉を胸に1年間楽しくやっていき、多くのメンバーと知り合い、共に楽しみを分かち合いたいと考えていました。一昨年度は地区委員として、昨年度はこんぴらキャビネットと真鍋ガバナリーの元、青少年LCIF委員長としてキャビネットの運営に携わり、ライオンズクラブのことも多くを学ばさせていただきました。昨年度の経験がなければRCの職務は全うできなかったと思います。

徳島キャビネットでも多くの仲間と知り合うことができ、偶然仕事でも石川2RCにお世話になり、山本7RCをはじめとした高知黒潮LCのメンバーの人達と懇親の場を多く設けていただき本当に感謝しております。仁木8RCとも徳島、高知と一緒に行動させていただき、楽しく過ごさせていただきました。年令に関係なく多くの仲

間と知り合い、職務を全うし、共に酒を酌み交わす、これはライオンズの醍醐味ではないかと思えます。

さて今期の5Rですが、当初336-A地区最高のリジョン、日本最高のリジョンを目指すことでやってきました。アクティビティ、LCIFに関しては地区でもトップだと自負していますが、会員数に関しては地区全体で168名減に対し、5Rが160名減となり、理由はありますが、実際に多くの会員減になったことを深く反省しております。

またいろいろな方と話し合う中で、クラブの問題点にも気付かされました。各クラブの会員減の中でクラブ運営に費用がかかりすぎ、事業を縮小せざるを得ないということです。本来奉仕団体であるLCが費用減により奉仕活動ができないとすると本末転倒です。これに関しては1メンバーとしてこれから真剣に考えていきたいと思えます。最後にRCの役職は大変楽しかったと感じています。これもZC、地区委員、すべてのクラブメンバーのご支援助け協力のおかげと感謝しております。また川辺ガバナリーをはじめキャビネット事務局の皆様本当にありがとうございました。

RC活動の貴重な経験を活かし



6R-RC
近藤 御風
(佐川越知)

RCを引き受けた当初は、6リジョン内の17クラブの例会訪問と、リジョン会議やガバナリー諮問委員会等、あらかじめ計画されている会議やスクールに、恙なく出席すれば、RCの役割は果たせるだろうと軽く考えていました。

私の所属する佐川越知ライオンズクラブは高知県の中山間地に位置し、来期55周年を迎える、会員20数名の小規模クラブです。

クラブ会長を三度、地区委員やZCを経験していましたが、「井の中の蛙、大海を知らず」の諺どおり、私のライオンズ経験は、ほんの断片にしか過ぎなかったことを思い知るようになりました。

リジョン内クラブの例会訪問を始めてすぐに、市街地のクラブと中山間地のクラブ、そして西南地区の遠隔地のクラブとは、私の予想をはるかに超え、大きな格差があることを目の当たりにしました。

クラブ運営の視点や苦勞も様々であり、地方のクラブほど地域の文化や行政との密着度が高いことも体感し、RCの役割を通じて、ライオンズ活動の視野が大きく広がりました。

最初の課題は、川辺ガバナリーが336-A地区の合同アクティビティとして提唱し、推進し始めた「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」という合同奉仕活動に対する3Zのクラブからの異論でした。

6R-3Zは、南海地震で日本一高い津波の襲来が想定される黒潮町を含む地域で、早くから危機意識をもって地域全体の防災・避難計画に沿って動いており、地域の避難計画と「合同アクティビティ」との整合性・妥当性を質す声に答える必要があったからです。その解決策は、相互理解とコミュニケーションにありました。

この度、RCの役割を担って、RC-ZCの担当クラブ事務局の負担の大きさを痛感しました。役員の活動費だけでなく、当該事務局への予算の計上を提案するとともに、RC活動の貴重な経験を活かして、今後のライオンズライフを有意義なものにしたいと考えております。

1年間ありがとうございました。

感謝！感謝！の1年間でした



7R-RC
山本 哲美
(高知黒潮)

今期、川辺地区ガバナーは336-A地区合同奉仕活動「子どもたちの命を災害から守ろう」を掲げました。ライフジャケットの贈呈事業の説明会に始まり、高知県教育委員会への希望数調査依頼など6回の打合せ会、高知市立浦戸小学校との贈呈式の打合せ等々の他に、ゾーン編成会議が通常の業務に加算され、本当に目まぐるしいあつと言っ間の1年でした。

クラブ例会訪問は主にゾーン・チェアパーソンに同行し、川辺地区ガバナーの基本方針をお伝えし、ライフジャケット贈呈事業への協力、会員増強を呼びかけました。お陰様でライフジャケット贈呈事業にご賛同いただき、7R全てのクラブから協力をいただくことが出来ました。また、行く先々で歓迎していただき、お酒を酌み交わしたことも楽しい思い出となりました。

7Rでは昨年度末に大豊ライオンズクラブが解散した結果、1ゾーン6クラブ、2ゾーン5クラブ、3ゾーン4

クラブとなり、ゾーンの再編成が検討されています。少数会員のクラブでは、クラブ役員を何回もしなければならず、また、地区役員・委員の選出に非常に苦労している現実があります。

2ゾーン制では次のステップの役員候補者が少なくなるので、各5クラブの3ゾーン制を維持し、会員数を調整したゾーン編成(案)を作成しました。各クラブで検討していただき、第4回地区ガバナー諮問委員会(ゾーン編成会議)で最終的に決定したいと思っています。

やはり若い会員を入会させ、次の世代を担う会員を育てなければ、クラブは衰退の一途です。まだまだ厳しい社会情勢の中での会員増強・会員維持は至難の業ですが、これからも会員一丸となつて取り組んでいただきたいと思います。

最後に、川辺地区ガバナーはじめキャビネットの皆様のご指導、ご鞭撻を賜り、そして7Rの地区役員・委員、クラブの皆様の温かいご支援・ご協力を得て、RCという大役を全うすることができました。

特に3名の優秀なZCに恵まれたことに感謝！感謝！です。本当に有り難うございました。

多くのライオンと縁を得て



8R-RC
仁木 孝教
(徳島マリソール)

昨年7月、8Rのリジョン・チェアパーソンを拝命し、早くも1年が過ぎようとしております。

4月には次期地区役員研修会に参加し、ガバナーの運営基本方針に基づき、組織の拡充を図り、改革・改善に取り組めるようにゾーン・チェアパーソンと連携を取りながら、地区運営の二助になるとの思いを強く致しました。

7月には川辺ガバナーの所属するリジョンということもあり、最初のガバナー公式訪問に選ばれ、無事に公式訪問を終えました。

8月から8R14クラブの例会訪問が始まり、2か月余りかけ全てのクラブを訪問しました。昨年経験させていた、ゾーン・チェアパーソンとは違った視点で各クラブの例会訪問をさせていただきました。各クラブがそれぞれ地域に寄り添った奉仕活動をされている姿に全く変わりなく、頭の下がる思いでした。

また、各クラブでは手厚い接待をし

て頂き、改めて「ありがとうございました」と感謝申し上げます。

さて、336-A地区の昨年との大きな違いは、全クラブが参加しての合同奉仕事業「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」ではないでしょうか。この事業に対しては賛否両論あり、色々な意見がありました。しかし、何回も会議を重ね、その趣旨を述べるうちに段々と理解が得られているという手応えを感じるようになりました。そして、「四国はひとつ」という強い思いが皆にあるのだということを確認致しました。

苦しい場面もありましたが、何よりも素晴らしいたくさんライオンとご縁を持つことが出来ましたことは、私にとつてこの上ない喜びでございますし、一生の宝だと思っております。

任務を終えた今は、これからも仲間と共にライオンズ活動を楽しみたいと思っておりますので、よろしくお願ひ致します。

最後になりますが、こんな私を一生懸命フォローして下さったゾーン・チェアパーソンや地区委員の皆様、そして各クラブ会長や会員の皆様に感謝申し上げます。

ありがとうございました。



1年を振り返って



9R-RC 博南 (北島)

任期もあと1ヶ月余りとなりました。1年間を振り返ってみますと、昨年の4月に次期地区役員研修会、5月に9R準備リジョン会議、6月には9R現・次期地区役員・委員引継ぎ会議、7月に入り第1回キャビネット会議、地区ガバナー公式訪問等が行われました。それぞれの会議のたびに、川辺ガバナーから「336-A地区の発展のため初心にかえり全力で取り組んでゆく」との力強い所信が表明されました。

ガバナーの運営基本方針のもと、7月から3ヶ月間をかけ9R17クラブの例会訪問をさせて頂きました。各クラブはそれぞれ趣向を凝らし、楽しく個性ある例会で大変勉強になり、思い出に残る例会訪問でした。各クラブとも会員増強、退会防止は大きな課題ですが、それぞれ創意工夫をしながら奉仕活動に頑張っている姿に感動致しました。

336-A地区合同奉仕事業「子どもたちの命を災害から守ろう」とい

うライフジャケット贈呈事業については、当初本事業に参加することに難色を示していたクラブもありましたが、いろいろと検討会議が行われ、全クラブが参加することに決まり、本事業を推薦することになりました。

9Rでは1月に先ず板野郡松茂町の長原小学校でライフジャケット贈呈式を実施しました。その後鳴門地区(鳴門LC)及び川内地区(眉山LC)でライフジャケット贈呈式が行われ、その状況が徳島新聞やテレビで報道されました。

巨大地震はいつ起こるかわかりませんが、しかしきつと近い将来やって来ることが確実とされています。これを機会に子供たちの防災意識が高まると共に、地域家庭においても防災対策をしっかりととして、万一に備える姿勢が必要であると思っています。

ライオンズクラブでは以前から色々とマンネリ化が指摘されていますが、こういう機会を捉えて各クラブが時代の要請に対応し、改善、改革、新企画を推し進めていく必要があると思っています。

最後になりますが、地区役員、委員、各クラブ会長、会員の皆様大変お世話になり、有難うございました。心からお礼申し上げます。

ありがとうございました。

会場内に安堵感を漂う 第4回キャビネット会議

地区年次対も無事に終え、会場内の雰囲気は、誰彼なく何となく緊張が弛緩した感がある5月20日、午後1時よりホテルサンシャイン徳島において最後となる第4回キャビネット会議が開かれた。

川辺ガバナーは、336-A地区初の合同奉仕活動として取り組んだ「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」も、全クラブの参加を得て、3030着のライフジャケットを贈ることができ、皆様のご協力に感謝いたしますと挨拶の中で述べられた。

山地GMT・GLT・FWTコーディネーターは例年6月には退会者が増えるので目標達成に向け最後の努力をして欲しいと、会員増強に向け叱咤激励をされた。

審議事項は台湾・東部地震への緊急義捐金の拠出だけであった。第64回地区年次大会代議員総会議事要録の確認、ライフジャケット贈呈事業の経過と今後、LCIF四大交付金プログラム事業報告など一般報告事項を佐藤キャビネット幹事が行い休憩に入った。休憩後はリジョン・チェアパーソン、ゾーン・チェアパーソン、地区委員長が順

次1年間を振り返り、それぞれの活動について述べた。解決できた課題、逆に次年度に持ち越してしまう課題などを述べ、1年を締め括り、川辺ガバナーの閉会権後並びに閉会の言葉で閉会し、会場を7階に移して懇親会となった。

懇親会は村木キャビネット副幹事の司会で開宴し、真鍋地区名誉顧問会議長のご発声で乾杯した。各テーブルでの歓談から別のテーブルへ移動して話し込むなど、お互いの1年間の活動を労わりあう光景が、過去3回の懇親会と違っていた。関野ガバナーエレクトのライオンズローアで第4回キャビネット会議をお開きとなった。1年間ご苦労様でした。



GMT・GLT・FWT・会則委員会

第1分科会は、代議員と会員を併せて300名余の参加を得て、1Fの式典会場で定刻通り開かれた。

助言者の一人である山路章靖元地区ガバナー・地区名誉顧問・GMT・GLT・FWTコーディネーターからは、非常に重みのある開会のお言葉をいただいた。

続いて齋藤委員長が挨拶と1年間の委員会活動報告を行い「会員純増の目標達成は、皆様方にご努力を頂いたが、会員増強の難しさを実感した」と1年を振り返った。

大川耕三松山中央LC会員委員長が「生き生きとしたライオンズ活動と会員増強の仕組み」と題し、「例会

出席率80%と委員会での活発な交流、会員増強への不断の取り組みが発展の力ぎを握っている」と報告した。

次いで木本左紀子阿南LC会長より「動けば実るを実践」と題し、「会員が一致団結して3名の新会員獲得に動き、短時間でガバナー臨席の入会式に結びつけることができた」と新会員獲得の経緯を報告した。

最後に助言者の真鍋隆前地区ガバナー・地区名誉顧問会議長より活動報告を踏まえ、分科会を締めくくってお言葉をいただいた。第1分科会では、心に響く幾多の言葉を聞くことができた。

(7R担当 坂東伸政)



今期、GMT・GLT・FWT・会則委員長に任命され、微力ながら大役を一生懸命に務めさせて頂きました。

GMT(グローバル会員増強チーム)として年度当初、各クラブに対し1クラブ2名以上の純増と、その内女性会員1名の招請をお願い致しました。それに基つき、各クラブより1年間を通じての「会員純増計画予定書」提出して頂きました。

また、キャビネットでは新会員の皆様に奉仕への誇りと勇気ある活躍を期待し、入会記念として会員名を記した記念盾を贈呈することになりました。

会員純増の目標達成についてクラブ会長はじめ地区役員、地区委員等の皆様方のご努力を頂きましたが、いまひとつ結果には結びつかず、改めて会員増強の難しさを実感した次第です。

また、総決算月の6月を「会員増強月間」として位置付け、2017年7月より2018年6月の1年間の現会長任期中における「会員増強賞」として特別ガバナーズアワード、ベスト10クラブの表彰を実施致しております。

GLT(グローバル指導力育成チーム)については各クラブで次代リーダー

委員長の任務を終えて

GMT・GLT・FWT・会則委員会

委員長 齋藤 翠

の発掘・養成など人材育成・資質の向上を真剣に考えていると感じております。

FWT(家族及び女性チーム)は、女性会員のリーダーを育成し女性の視点で、感性を生かした新しい奉仕活動を創造し、その質の高い奉仕を通して会員増強を図るという責務を担っております。

336-A地区では、145クラブの内92クラブ、63%が家族会員の導入をはかっており、大分、認識が浸透し、家族会員数は全体の17%を占めております。しかし、12月度に多くの子会員が退会したのは残念なことでした。

女性会員の増強については、2018年には、アイスランド出身のグドラン・イングバドターさんが、初の女性国際会長として誕生します。336-A地区では女性会員の比率が24%で、今期の目標30%を下回っております。

次期のキャビネットは愛媛県になります。関野邦夫地区ガバナーエレクトを中心にライオンズクラブの未来のために活躍されることを期待しております。

また、女性会員の増強並びに、女性のリーダーが増加していく環境作りにもご尽力を頂きたいと、重ねてお願い申し上げます。



MC・ライオンズ情報・地区誌・大会参加委員会

MCライオンズ情報・地区誌・大会参加委員会は、西原透・宮内浩四郎の両元地区ガバナー・地区名誉顧問を助言者として、3階特別室の会場に代議員・オブザーバー150余名を迎えて開かれた。

西原透元地区ガバナー・地区名誉顧問の開会のことは、出席者の紹介に続いて関委員長挨拶・活動報告が行われた。

その後、2クラブの代表による活動事例発表に移った。

1例目は「OS E A Lフォーラムに参加して―2019年は広島で開催決定。ぜひ、みんなで盛り上げていきましょう!―」と題して、今治



東ライオンズクラブの阿部国弘さんが台湾でのフォーラム体験をもとに発表を行った。

続いて「SNSの活用について―フェイスブックで広げようライオンズの輪!―」と題し、徳島藍ライオンズクラブの山島まゆみさんが発表を行った。

両者ともにプロジェクター使用の発表は、説明も丁寧であり、分かり易いと好評であった。

最後に宮内浩四郎元地区ガバナー・地区名誉顧問から閉会のことばとともに分科会の講評をいただき、予定の時間をいっぱいに使って分科会を閉会した。

(5R担当 岡田 学)



今期を振り返ると、個人的な事情ですが綱渡りであったと言えます。

第1回常設委員長並びに内局者全体会議に出席したものの翌月には入院し、復帰したのは地区役員・地区委員研修会が目前に迫っていました。

ガバナー公式訪問の前に地区誌1号を発刊するための編集作業が続き、体力的な不安を抱いて新年度を迎えました。皆に助けられようやく1年が終わろうとしています。

今年度の当委員会は3委員会に地区誌編集委員会が加わり4委員会となりました。従来のPR委員会の名称が、MC(マーケティング・コミュニケーション)委員会に変更され、各クラブにも名称を変更するようにお願いしました。

ライオンズ情報については、ライオン誌日本語版が、2018年よりデジタル版(隔月)に移行するので、デジタル版の有効活用を図ることが望ましいとお伝えしました。

大会参加では、地区委員が各種大会への積極的な参加を呼び掛けるとともに、地区誌の誌面活用を心掛けました。そして、OS E A Lフォーラムや地区年次大会への参加、ライオンズ情報の発信が顕著なクラブをアワードの対象とし、ライオンズ情報特別賞と大会参加特別賞を新たに

情報発信の多様化を実感

MC・ライオンズ情報・地区誌・大会参加委員会

委員長 関 勝美

設け、それぞれに実績を上げたクラブを表彰させていただいた。

新たに加わった地区誌編集と発行は、従来の地区誌編集委員に代わって9人の地区委員が、その任に当たりました。各リジョンから委員が選出されており、編集会議などに再三集まることができず、委員同士が顔を合わせる機会が減りました。この点はメールなどの活用と、年4回の委員会を活用した編集会議でカバーすることができました。

反面、常設委員長並びに内局者全体会議に出席することができ、キャビネットと情報を共有し、各リジョンから委員が選出されているのでリジョンの情報も共有しやすいというメリットが生まれました。ガバナー公式訪問の取材や、周年行事の原稿依頼などリジョンに関わることを地区委員にお任せすることができました。

MC委員会としては、その意義の深掘りも役割も十分だったとは言えませんが、ライオンズ情報は、地区誌・大会参加委員会としては、それなりの役割を果たしたものと自負していますが、これも副委員長・委員各位をはじめとする多くの方々のご協力に感謝するとともに、心から御礼を申し上げ、1年間の総括に替えさせていただきます。ありがとうございます。

青少年・LCIF・ライオンズクエスト委員会

少年・LCIF・ライオンズクエスト委員会は、木内千春元地区ガバナー・地区名誉顧問と三谷智省元地区ガバナー・地区名誉顧問・LCIFコーディネーターを助言者として代議員・オブザーバー150余名を迎えて開催された。

はじめに木内千春元地区ガバナー・地区名誉顧問より開会のことばがあり、続いて役員・委員の紹介が行われ、春木扶佐子委員長の挨拶と1年間の活動報告が行われた。

次いで芳之内徹砥部ライオンズクラブ会長より「地域に根ざした奉仕を―子どもたちの奉仕と友愛の心を、育み、称え、励ます活動―」と題し、



砥部の幼稚園、小学生、中学生の子供達とクラブが奉仕を通して密接になり、相乗効果をあげているとの発表であったが、MC的発想で奉仕しているすばらしい活動例であると思った。

次に斎藤明子6R青少年・LCIF・ライオンズクエスト委員より「未来に繋ぐ子どもたちへの贈物」と題して発表がありました。

特に質問もなく、最後に三谷智省元地区ガバナー・地区名誉顧問・LCIFコーディネーターから講評をいただき閉会した。

(4R担当 水野 彰)



今年度、川辺ガバナー基本方針のもと、新たな委員会の船出の年となりました。

青少年育成事業では、継続・新規を含め、地域に根差した発想力にあふれた事業に多く取り組んでいただき、アワードの選考会でも甲乙つけがたい事業が多く、改めてライオンズ精神のすばらしさを再認識しました。

また、今年50周年を迎えるLCIFは、MJFを含め1人平均50ドルを目標とさせていただきました。

5月現在でMJF205口、クラブ参加率90%、特に会員数の少ないクラブからの50ドル献金を多くいただき、総計は過去5年間で最高の寄付金額となり、目標を達成することができました。心より感謝申し上げます。

また、ライオンズクエスト「ライフスキル教育プログラム」普及活動では、地区に導入されて11年目を迎え、常設委員会として初めての活動となりました。3回のワークショップ(W.S.)と2回のセミナーが開催されました。WS開催は、坂出ライオンズクラブ・鳴門ライオンズクラブ・土佐ライオンズクラブと単独クラブの活動となりました。委員の皆さまには意識が薄かったと思いますが、メンバーに理解してもらうために高知とさみずき

新たな風が吹く予感が

青少年・LCIF・ライオンズクエスト委員会

委員長 春木 扶佐子

ライオンズクラブが開催した県単位のセミナーでは、全権を委員に任せて私と野間副委員長はあくまで黒子に徹しました。戸惑いも多かったと思いますが委員の皆さまの心の中に何かを残したのではないかと思います。今年の夏には地区で初めて幼稚園版ワークショップが川之江ライオンズクラブ主催で開催されます。地区に新しい風が吹きそうです。

30周年を迎えた国際平和ポスターコンテストは昨年からの引継ぎで1クラブ1枚の応募でお願いしたが、活動が小さくなるとの意見が多数寄せられ、キット購入数の応募に変更しました。「平和の未来」のテーマに沿ったそれぞれの思いが表現された素晴らしい作品が多く集まりました。

ライオンズクエスト特別委員長4年、青少年委員長を含めると5年間、委員長として務めさせていただきますました。たくさんのお会いとご協力に助けていただきながら走り続けた5年だったと思います。皆様のご支援と温かいご協力に心から感謝申し上げます。

委員の皆さまには、至らぬ点多かったと思いますが最後までお付き合いをいただきましてありがとうございます。次世代を担う子どもたちのために私たちライオンに何ができるか、想いは永遠に。



第4分科会は、西園寺純一元地区ガバナー・地区名誉顧問の開会の挨拶、役員・委員紹介に引き続き、手塚久利委員長の挨拶・活動報告が行われ、その後、2例の活動事例の発表が行われた。

まず、1例目は「薬物乱用防止活動への取り組み」と題して高知桜L Cの谷村理恵会長から、クラブが薬物乱用防止に取り組んだ8年の歩みについての報告があり、中でも「高知立大学」の学生による「薬物乱用防止サークル ダメ。ゼツタイ。」とのコラボで、効果的な活動ができた、との発表があった。

続いて2例目は小児科専門医の新



井淳一先生からの「小児I型糖尿病と高知の糖尿病サマーキャンプについて」と題した報告で、ライオンズクラブも支援しているサマーキャンプは、子供たちが自然の中での集団生活を通じてインスリン自己注射や血糖自己測定など自己管理に必要な糖尿病の知識・技術を身につけるとともに、メンタルケアの場として実施されているとのことであった。

その後、橋本充好元地区ガバナー・地区名誉顧問・GSTコーディネーターから講評と閉会の挨拶をいただき、分科会は充実した中で閉会した。

(6R担当 藤戸啓朗)



一昨年の夏の終わりに一人の訪問者がありました。「川辺の名代で参りました」と挨拶されたのは、佐藤次期キャビネット幹事でした。前振りはありませんでした。それだけに私は、これは避けることはできないと思いました。

しばらくして、キャビネットの初会合がありました。キャビネットはスモールキャビネットを歌い文句にしていますが、そのとき初めてお会いした方が6名おりました。しかし、各委員長とは何かしらの接点があり、少し気が楽になりました。でも、皆様はその道のスペシャリストで、自分だけ場違いの感がしました。

次は各リジョンの地区委員の方との出逢いです。未熟な私が、キャビネットの方針を正確に伝えることができるのか不安でした。だが各リジョンの委員はとてもフレンドリーで、すごく協力的でした。只々、感謝するばかりです。

ここで環境保全・保健福祉・アラート委員会の特性について記してみます。当委員会と他の5つの委員会と根本的に違うところがあります。それは当委員会が人命の委員会だということです。環境によって人の命は左右されます。保健福祉については、自助努力によって寿命を伸ばすことができます。

フレンドリーな委員に感謝

環境保全・保健福祉・アラート委員会

委員長 手塚 久雄

アラートについては、準備することで少なからず命の欠如を防ぐ事ができます。

そしてアラートに関しては、まずもってお礼を申し上げます。当委員会の今期の課題は何といつても「ライフジャケット(四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう)」でした。自然災害に対する減災への方策の推進、とりわけ近い将来起きるであろうと言われている「南海トラフ大地震」に備え、子どもたちへの支援活動を計画しました。

それが336-A地区合同事業「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」への取り組みです。各リジョンから選出されたリジョン・チェアパーソン、ゾーン・チェアパーソンはじめ代表者の皆様の積極的かつ意欲的な取り組みと、果敢なご英断により目標を達成することができましたことに、誇りとライオンズとしての喜びを感じているところでもあります。

保健福祉では、五献運動(献血・献眼・献腎・献骨髄・臓器提供、ドナー)や薬物乱用防止に積極的に取り組まれました。

最後になりますが、環境保全・保健福祉・アラート委員長の職務の1年を振り返れば、いろんな知識を得られたことに感謝をし、多くの有能なライオンに出逢えたことにお礼を申し上げます。

YCE・ライオンズレオ・国際関係委員会

第5分科会は、長谷川憲男元地区ガバナー・地区名誉顧問より開会の挨拶をいただき、役員・委員紹介に続いて、高橋寛治委員長挨拶・活動報告が行われた。

高橋委員長は「ホストクラブならびにファミリーの皆様に変化が世話になったこと、また新しいレオクラブが誕生しつつあることは嬉しいことである」と1年を振り返った。続いて2例の活動事例発表が行われた。

最初は北島ライオンズクラブの石井哲夫さんが「初めてのホストファミリーー クロアチアから来た背の高い少女」と題して、昨年7月に来徳してサマーキャンプに参加し、



2018

石井さんのホストファミリーの体験を発表した。

2例目は「YCE冬季派遣生としてイタリアに行つて―数え切れないほどの文化や知識を吸収して―」と題しての発表があった。来徳できなかった派遣生の青野桜子さんに代わつて、父親である新居浜ライオンズクラブの青野泰介さんが、異文化に触れた桜子さんのイタリアでの体験と喜びを伝えた。

最後に石川俊夫元地区ガバナー・地区名誉顧問よりYCEの意義や事例発表に対する感想と閉会の挨拶をいただき、分科会を終了した。

(8R担当 北島 隆)



2018.04.08

文化・歴史・言語を越え、世界の人々と交流し、相互理解の精神により、青少年の明るい未来を目指す大切な事業であり、今期の336-A地区では、次のクラブに派遣、受入のご協力を頂きました。

夏期派遣生
アメリカ女子1名、7月26～8月26日
スポンサークラブ丸亀LC
オーストラリア女子1名、7月20～8月29日
スポンサークラブ丸亀LC
夏期来日生
トルコ女子1名、7月13～8月13日、ホストクラブ新居浜中央LC
クロアチア女子1名、7月11～8月8日、ホストクラブ北島・鴨島LC
台湾女子2名・男子1名、7月14～8月3日、ホストクラブ丸亀・高知南・東予LC
冬期派遣生
イタリア女子2名、12月17～1月7日
スポンサークラブ新居浜・坂出白峰LC
オーストラリア男子1名、12月1～12月21日
スポンサークラブ三木さぬきLC
C
ニュージーランド女子1名、12月20～1月7日
スポンサークラブ新居浜LC
冬期来日生
イタリア女子1名、12月10～12月30

多くの会員の多大な協力に感謝

YCE・ライオンズレオ・国際関係委員会

委員長 高橋 寛治

日、ホストクラブ坂出白峰LC
マレーシア女子1名、12月8～12月28日、ホストクラブ松山センターLC
また、徳島サマーキャンプはA・B地区合同で、7月17～20日の4日間、来日生10名を迎えて行いました。スケジュールは余裕を持たせ、来日生の希望を聞きながら徳島のアニメショップツアーや若者たちとの国際交流も含め徳島の文化・伝統を体感していただきました。

ウィンターキャンプはA・B地区合同で、12月22～24日の3日間、岡山いぶきの里スキー場で来日生5名と岡山国際レオクラブ12名の参加を得て行いました。美しい雪景色の中でスキーや釣りなどを体験し、同世代の若者と有意義な国際親善交流ができたと思います。

レオクラブの現況は6クラブですが、新たなクラブも誕生しつつあるようなので、大変期待しています。

来期の道前キャビネットのサマーキャンプは、愛媛県西条市にて7月23～26日の開催が予定されていますので宜しくお願ひします。

336-A地区のスポンサークラブ、関係クラブ、ホストクラブやホストファミリーなど多くの皆様に多大なご協力を賜り、心より感謝申し上げます。有難うございました。



IT推進チーム

開始15分前から会場のスクリーンにライオンズクラブの活動やLCIFの仕組みなどが映しだされ、その間に110席余りの座席が満席になり、第6分科会は定刻通り始まった。

松前龍宗元地区ガバナー・地区名誉顧問より「新しい100年に向かってIT推進チームは大切で、やりがいのある担当です」と開会の挨拶と激励がなされた。

長尾和彦委員長の挨拶に続いて、IT推進チームの井出幸彦さんが活動報告を、高岡英治さんがIT最新事情について述べた。

活動事例発表は、3人の方がそれぞれの視点で発表された。1人目は



山内長則伊予土居LCIT担当委員が「ITは1日にしてならず 伊予土居でくたくたIT活動」を、続いて権名津隆治松山城山LCMC委員長が「ISNSの活用状況について」を、最後に松本茂樹高松フェニックスLCIT委員長が「IT利用の一例」と題し、それぞれに興味深い事例の発表があった。

最後に菅武廣元地区ガバナー・地区名誉顧問が「ITはますます重要になってくることを実感しました」と閉会に際しての挨拶で述べ、分科会は和やかなうちに閉会した。

(9R担当 和田寿子)



ライオンズクラブにおけるITの役割は益々大きくなり、ライオンズクラブ国際協会は2018年5月5日に「MYLION」をリリースし、ライオンズクラブにおけるITの役割はどんどん大きくなってきています。

15年前は「IT=ホームページの管理」という考え方が、今では各種文書の電子化・オンライン報告等々、多くの作業を効率化するために国際協会はIT活用を促進してきました。

336-A地区においても2013年以来、地区のIT化の取り組みを行ってきましたので、次にその具合例を紹介いたします。

◆キャビネット会議、地区年次大会等のキャビネット関連のイベント登録をWeb上で行い自動集計が瞬時に行える

◆2016年以降ガバナー諮問委員会の諮問事項の通達やクラブからの回答をWeb上で行い、各ゾーンごとの集計自動化を実現。それをエクセルで出力することによりゾーン、チェアパーソンンの作業を大幅に軽減

◆2016年以降ホームページが新しくなりリジョン、ゾーン、委員会の活動報告を各自で地区HP上に保管できる

今期は次のような取り組みを行って

今期1年を振り返って

IT推進チーム

チームリーダー 長尾 和彦

きました。

今期1年は、各クラブに「IT委員長」、もしくは「クラブIT担当委員」を任命していただき、今後の国際的なIT化の流れの準備をしてきました。

また、年次大会においては投票場での代議員本人確認をバーコード読み取りで出来るようにし、毎年恒例の「代議員本人確認場所の混雑と行列」が全く見られなくなりました。

今後、国際協会の方針で、奉仕報告や会員管理がサバンナから「MYLCI」に代わって行きます。

また、3年連続 国際会長スローガン「ウィー サーブ」の下、国際協会は良質の奉仕を実現するため組織改革を強化していくと思われま。

それに付随して「フォーワード」に描かれているように、地区やクラブのITへの取り組みを強化していくことが求められます。

そのようなライオンズクラブ全体のITの進歩を、皆様のクラブにおいてもスムーズに活用していたくために「IT推進チームは」今後とも努力してまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。

*「MYLion」とは、スマートフォンにインストールするライオンズクラブ国際協会のメンバーのためのアプリで、計画、接続、奉仕に必要なツールが入手できます。

有意義な1年をありがとう



MC・ライオンズ情報・
地区誌・大会参加委員会
副委員長
庄野 亨
(徳島やまもも)

関委員長の下、副委員長として大変楽しく、ライオンズを存分に知れた有意義な1年であった。

3月初旬よりキャビネットで行われる準備委員会から始まり、研修会・キャビネット会議・平和ポスター選考会・アワード選考会・年次大会と、ライオンになつて8年になるが、全てが初めての参加であった。

中でも印象に残っているのがアワード選考会で、私の所属しているクラブが、アワードを積極的に申請しないので、アワード自体にあまり関心がなかった。しかし、選考会が始まり、RCが推薦するアワードになると、各RCが真剣に強気に発言し、却下されてもなお食い下がり、最後はアワードの獲得に成功していた。ある意味、格闘技のようである。ライオンズの活動はアワードのためではないと思うが、1年の活動の評価として位置付けられるので重要なモノなのだと思ふ。私の所属クラブでも次年度より自慢できるア

クティブティは、積極的に申請していくようにしたいと思う。

また当委員会は、今年度より地区誌も担当し、各リジョンの地区委員と連携し、毎月打ち合わせを行い、自身の濃い、生の記事を掲載できたことが一番の収穫であった。地区委員の協力なしでは発行できなかった地区誌。本当にご苦勞様でした。そして、ありがとうございました。

最後に、ライオンズに入会して本当に良かったと感じたのは、子どもたちの笑顔が見られたことだ。「四国の子どもにライフジャケットを贈ろう」事業は、本当に意義のある事業であったと感じている。第1回キャビネット会議では難色を示していたクラブも、第2回キャビネット会議では、この事業に対して称賛の言葉を述べ、336-A地区の全クラブが最終的には参加した。ライオンズクラブの結束力の強さと、未来ある子どもたちへの思いは一つなのだと思ふ。

頼りのない私であったが、関委員長の強いリーダーシップやキャビネットの皆様のおかげで、今年度の活動ができた。この貴重な経験を今後の活動につなげて活かしていきます。1年間、本当にありがとうございました。

新しい常設委員会としての1年



青少年・LCIF・ライ
オンズクエスト委員会
副委員長
野間 典子
(今治くるしま)

特別委員会として活動してきたライオンズクエスト委員会が、常設委員会として新たな一歩を踏み出し「青少年・LCIF・ライオンズクエスト委員会」という委員会になり、それと同時に、その流れを絶やさぬようにということで副委員長というポストが新設されました。

ベテランの春木委員長の背中を追ってききましたが、LCIFに関しては、100周年を機にライオンズがより多くの世界の人に奉仕する体制作りを始めた国際協会の変革のスピードに合わせるには、なかなか大変なことを実感しました。馴染んでいる20ド献金も100ドに移行する過程で、まずは50ドにアップするのも、地区委員がリジョンの中で会員に理解を求めてくれたおかげで、今年度は地区で過去最高の寄付ができ、クラブ参加率も90%を記録しました(三谷地区コーディネーターが常々おっしゃっている「寄付金がゼロ(のクラブ)を(地区内で)ゼロ

にする」ことはかかいませんでしたが。また、常設委員会に入ったライオンズクエストに関しても、今年度から導入された「幼稚園／保育園版」に興味を示したクラブが、園内型のセミナーを開催し、次年度の園内導入が決まりました。

クラブのアクティブティもほぼ終わり、次年度の準備に取り掛かっている第四・四半期には委員会主催で、講師に北山先生を招き、わかりやすい「メンバー対象のライオンズクエストセミナー」を各県で開催することができたのも大きな成果でした。このセミナーがきっかけとなって次年度の事業として検討するクラブが出てくることを願ってやみません。

アワードの選考以外には自分たちが主体となる活動は、今までの地区委員はあまり経験したことのないことで大変だったかもしれませんが、委員としての達成感があったのでは、と思うのは私だけでしょうか。「ライオンズクエスト」という言葉は、この10年余り耳にすることはあっても、実際に経験することがなかった委員に触れてもらえたのはよかったです。

1年の貴重な経験を生かして来年度に繋げていきたいと思ふ。



anniversary 20
結成20周年記念式典
高知りょうまライオンズクラブ

3月11日、ザクラウンパレス新阪急高知での結成20周年記念式典には、岡崎誠也高知市長、青木章泰高知商工会議所会頭等のご来賓、また川辺ガバナーをはじめ地区役員の皆様、姉妹クラブの下関LC、神戸サンLC、また多数のブラザークラブの皆様方のご臨席を賜りまして、メンバー一同、心より感謝申し上げます。

記念事業といたしまして、「高知第四小学校図書室へ畳コーナーの設置、りょうま文庫寄贈」「高知りょうまLC杯第13回高知県少年柔道大会開催」「高知県立坂本龍馬記念館に幕末から明治初期における歴史資料（錦絵5点）寄贈」「開成館の説明絵図パネルを東九反田公園に設置し、除幕式を10月3日開催」「NPO法人高知アイバンクへ角膜摘出セットを贈呈」「高知県ライオンズクラブ献眼特別委員会並びに骨髄バンク特別委員会へ金一封を贈呈」また「四国の子供たちにライフジャケットを贈ろう」事業並びにLCIFへ寄付金を贈呈しました。

「ワイ・サーブ」の精神を忘れず、先輩の築かれた奉仕団体としての素

会長 **栄田 隆文**

晴らしい業績を汚すことのないよう、メンバー一丸となって地域発展のために努力をしたいと思います。



anniversary 60
結成60周年記念式典
観音寺ライオンズクラブ

観音寺ライオンズクラブは、昭和33年3月19日に丸亀ライオンズクラブのスポンサーにより産声を上げ今年で60周年を迎えました。

当クラブでは、結成60周年を記念する事業や記念式典、記念祝宴について、どのような周年行事として取り組むかを、当クラブから出た塩田元ガバナーが残していた「周年行事の取り組み方」などを参考に協議を重ねた結果、現在の経済状況や当クラブの現状を考慮して、ライオンズ精神の原点の下、華美にならず手作り、背伸びをせずに身の丈に合った周年行事とする事にしました。

そのような取り組みでありましたが、3月18日の記念式典は、浜田香川県知事、白川観音寺市長、守谷商工会議所会頭など多数のご来賓の出席を賜りました。また、川辺地区ガバナーの代理として友澤第二副地区ガバナーや役員など多数の皆様のご臨席をいただきました。成功裏に式典を挙行出来ました事に、クラブ会員一同心より厚く感謝とお礼を申し上げます。

これからも、ライオンズの高揚

会長 **大河内 孝**

と発展に会員一同精進して行きたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。



結成40周年記念式典
新居浜中央ライオンズクラブ

3月18日、新居浜市ユアーズにおきまして、新居浜中央ライオンズクラブ結成40周年記念式典を開催いたしました。記念式典にあたりご来賓の皆様はじめライオンズクラブ336-A地区の皆様にご臨席を賜り、厳粛かつ盛大に開催できましたことは、我々メンバーにとり誠に意義深く光栄であり心から厚く御礼申し上げます。

この40年間の歩みはライオンズの高揚と地域社会への奉仕、そして会員同士の団結でライオンズ活動を行って参りました。結成40周年の記念事業は9月9日に「出張！なんでも鑑定団 in 新居浜」を新居浜市市民文化センターで開催し、約1000件の鑑定依頼の応募があり、当日は1000人余りの方々に参加いただきました。

また、日々の活動においては青少年の健全育成や障がい者との交流等、様々な働きかけを行っておりませんが、これからも会員一同一丸となつて社会奉仕に精進する所存であります。

結びになりましたが、今後とも皆様方の温かいご支援とご指導、ご鞭

記念大会委員長 河端 寛
 撻をお願ひ申し上げますとともに、当クラブ結成45周年に向け進んで参りたいと思ひます。



結成40周年記念大会
松前ライオンズクラブ

私ども松前ライオンズクラブは、昭和53年11月、伊予ライオンズクラブのスポンサーにより結成され、以来40年間スポンサークラブの温かいご指導と、ブラザークラブのご支援を頂きながら40年という長い月日を経る事が出来ました。

3月21日、松前町長はじめ川辺信郎336-A地区方バナー、地区役員・地区委員の皆様にご臨席を賜り40周年に相応しく、盛大に記念大会を開催することが出来ました。

式典では記念事業として「えひめ国体へのテント贈呈」並びに「社会福祉協議会へ車椅子贈呈」の目録贈呈を行い、また町内の小・中学校6校の児童・生徒にお越し頂き「小さな善行者表彰式」を行いました。

祝宴に於いては、郷土文化である「松前湧水太鼓」を力強く披露し、当クラブ会員の岡本町長率いる演舞「能楽観世流舞囃」を皆様に鑑賞して頂きました。

40周年という大きな節目の年を迎え、今後益々会員一同一致団結をし、会員増強を行い更なる社会奉仕活動を実践して参ります。
 皆様、ありがとうございました。

会長 茂川 俊英
 幹事 佐伯 康司
 大会委員長 仲田 恭平





35th anniversary
35
結成35周年記念式典
高知東ライオンズクラブ

3月25日にホテル日航高知旭ロイヤルにて、結成35周年記念式典を開催させていただき、尾崎正直高知県知事、岡崎誠也高知市長をはじめ多数のご来賓、また三谷智省336-A元地区ガバナーをはじめとする地区役員、姉妹クラブの境港美保LCや多くのブラザークラブの皆様にご臨席賜り、厳粛に執り行うことができました。

全編高知ロケ、出演者の子供たちは高知にてオーディションを行い起用された、幕末150周年記念映画「サムライせんせい」への協賛をメモが25周年記念事業として始めました。「高知東ライオンズクラブカップ高知県小学生ドッジボール選手権高知県大会」を映画の一場面として組み込んで戴き、多くの選手たちが出演することができ、無事、映画が完成致しました。

結成以来、積極的に取り組んで参りました青少年育成活動のひとつとして意義が有るのではと考え取り組み、日頃のライオンズクラブの活動のPRにもなったと確信しています。

35周年実行委員長 清水 泉

今後とも、クラブ員全員が「We Serve」を心に40周年に向けて精進を続けて参ります。



25th anniversary
25
結成25周年記念式典
今治くるしまライオンズクラブ

早いもので当クラブも結成25周年を迎えました。今回の記念式典で結成式、チャーターナイトなどを含めて式典は7回目(くらいかな?)になるので、式典自体はお馴染みの流れで、特にこれといったトラブルもありませんでした。

3月25日に今治国際ホテルで行った式典には、宮城県南三陸志津川LCから高橋会長はじめ8名が、兵庫県の芦屋業平LCからもお見えになり華を添えていただきました。

祝宴では新居浜別子LC、芦屋業平LC、南三陸志津川LCの会長から心のこもったお祝いのスピーチをいただきました。長年にわたって交流を続けているクラブなので、ここにも25年の年月の中で培った財産を垣間見たような気がしました。

ずっと交流をさせていただいていても、こういう式典等がないと、なかなかお会いすることができない方もたくさんいらっしゃると思います。やはり「節目」というのは大切にしなければなりません。

最後に、スポンサークラブの今治東LCをはじめブラザークラブの皆様、そして25年の歩みの中でお世話

MC委員会 委員長 松本 宏平

になった皆様に、あらためて感謝申し上げます。





結成15周年記念式典
高知よさこいライオンズクラブ

3月31日、高知市内の「城西館」において、結成15周年記念式典を挙行いたしました。尾崎正直高知県知事（祝賀会から出席）、岡崎誠也高知市長をはじめご来賓の皆様、キャビネット、地区役員の皆様及びブラザークラブの方々、また、遠く青森からは姉妹クラブ「青森ねぶたライオンズクラブ」の皆様にご出席いただきました。

記念行事としては、恒例としている「桜（陽光桜）の植樹」を高知県公立大学法人・永国寺キャンパスに、南海トラフ地震に備えて高知県に対し「高知県防災キャラクター『じしんまん』の着ぐるみ」と「備蓄用不織布毛布」を贈呈いたしました。さらに特定非営利活動法人うーたん、特定非営利活動法人高知いのちの電話協会、高知県ライオンズクラブ献眼・骨髄バンク特別委員会へ、それぞれに「支援金」の贈呈を行いました。

年度末のご多忙の中を多数の方々にご臨席を賜りましたことに對し、クラブメンバー一同、心より感謝申し上げます。

今後も地域に密着した奉仕活動を

展開して参ります。ありがとうございました。

会長 橋本 孝志



結成40周年記念式典
野村ライオンズクラブ

4月15日、川辺信郎336-A地区ガバナーをはじめとするご来賓、並びにブラザークラブの皆様方のご臨席を賜り、野村町乙亥会館におきまして野村ライオンズクラブ結成40周年記念式典を開催させていただきました。

西予市野村町といえば「乙亥相撲のまち」と言われ、昨年の愛媛国体におきましても相撲競技が当会館で行われました。野村ライオンズクラブの特色を演出するため、国体開催時の土俵・棧敷席で式典を行いたいと乙亥会館館長の富本氏にご相談したところ、快くご協力を頂き、多少変則的ではありましたが土俵上の演台で記念式典を実施することが出来ました。

また式典後のアトラクションも地元有志の方々に「しよつきり」を演じていただき、野村らしい記念式典に出来ました。記念事業としましてはささやかながらライフジャケット事業に献金させていただきました。

私たち、野村ライオンズクラブはこの40周年の喜びを契機に、身の丈にあった地域奉仕の精神をもって地域に愛されるクラブ運営をしたいと

思っておりますので、尚一層のご指導をお願いいたします。

会長 大塚 博之





anniversary 35
結成35周年記念例会
中土佐ライオンズクラブ

4月15日、カツオのタタキで有名な「黒潮本陣」で、池田洋光中土佐町長をはじめ記念事業に協力をして頂いた方々、6R・2Zの役員及びブラザークラブの会員と事務局員の皆様方のご臨席を賜り、35周年記念例会を開催致しました。

懇親会ではアトラクションとして、会員・家族の3名によるオカリナの合奏と会員とその仲間による男女2名の謡を披露、手作りのアトラクションでしたが、記念例会が大いに盛り上がりました。

須崎ライオンズクラブのスポンサーにより結成されて以来「地域に密着して奉仕する」を活動規範として、多岐にわたる事業を展開してきました。記念事業では、町内の小学生252名全員に「手作り防災頭巾」を贈呈しました。これは町内外から頭巾の中に入れるタオルの提供を受け、町内のパッチワークサークルの協力により作られたものです。

また、町内のサーフィン駐車場に山桜、大島桜、モミジの記念植樹をしました。苗木は、高知県森と緑の会から無償提供された若木です。

50周年をめざして、これからも会員一同力を合わせて頑張っていきます。

会長 田上 正司



anniversary 55
結成55周年記念式典
小松島ライオンズクラブ

4月21日、私たち小松島ライオンズクラブは結成55周年記念並びに第1300回例会記念パーティーを開催致しました。濱田保徳小松島市長をはじめ川辺信郎ガバナー、佐藤キャビネット幹事、地区役員・委員の皆様並びにスポンサークラブの徳島中央ライオンズクラブ辻和幸会長、ブラザークラブ会員の皆様方多数のご臨席を賜り盛大に開催できましたことは会員一同、この上ない喜びであり心より厚くお礼を申し上げます。

さて、当クラブは、1963年4月20日、徳島中央ライオンズクラブのスポンサーにより徳島県内5番目のクラブとして誕生以来、地域の皆様方の当クラブの奉仕活動に寄せる深いご理解と、温かいご支援ご協力に支えられて今日を迎えることができました。これもひとえに、スポンサークラブをはじめ関係皆様方のご指導ご厚情の賜物と厚く感謝を申し上げます。

私達は、55周年を一通過点と捉え、心新たに60周年に向かって邁進致します。

記念例会・大会委員長 榎田 米昭
 会長 長谷 祐治

まず。また今日までの活動を礎に、初心にかえりライオニズムの高揚に一層の努力、精進を重ねてまいります。存でございます。





結成35周年記念会
八幡浜みなとライオンズクラブ

4月21日に八幡浜センチュリーホテルイトーにて川辺信郎ガバナーのご臨席を賜り、総勢140名余の参加をいただき創立35周年記念会を開催いたしました。

記念事業として、市内小学校に桜の植樹、八幡浜市防犯協会に防犯カメラ4台を贈呈、336-A合同アクティビティ「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」に参加するなど事業を行いました。

大城市長、川辺ガバナーより心温まるご祝辞を賜り、感謝の気持ちと「地元地域に貢献できる奉仕」を再認識して、改めて身が引き締まる思いを強く致しました。また、永年在籍功労で表彰された菊池仙一に対して、ガバナーご本人が付けていた国際協会からのバッジをいただき、会員一同大きな感動を覚えました。

祝宴に移り近隣クラブのメンバーと和気藹々の雰囲気の中で、より一層友好を深めることができました。式典を開催するにあたり、総務、式典懇親、記念事業、記念誌の四つの部会を編成し、各メンバーがそれぞれの役割分担を果たし、盛会裡に行うことが出来たことに、あらため

て当クラブの結束の強さを認識し感謝するしだいです。

会長 杉山 博司



結成55周年記念式典
鳴門ライオンズクラブ

4月22日、ルネッサンスリゾートナルトにおいて川辺ガバナーはじめ多数のご来賓の方々にご臨席を賜り、記念式典を執り行うことが出来ましたこと、メンバー一同心から感謝申し上げます。

結成以来、地域に密着した奉仕活動に取り組み、市内中学校への図書寄贈或いはスポーツ活動への数々の支援、ライオンズクエストライフスキル教育プログラムの実施等、青少年の健全育成に努めてまいりました。記念事業も「未来を担う青少年の育成の為に」をテーマとして「子供達に自分の夢と希望に向かって大きく逞しく成長してもらいたい」との思いで事業を展開してまいりました。

今年、地元の鳴門市では板東俘虜収容所においてアジアで初めて第9が演奏されてちょうど100年目の年となり、数々の記念行事にも参加してまいりました。長年友好クラブとして交流を深めてまいりました会津鶴城ライオンズクラブ様との姉妹提携もその一つです。

鳴門ライオンズクラブは、今年を60周年、70周年へと向かうスタート

の年として「ウィ・サーブ」の精神のもと、地域社会に密着した奉仕活動に取り組んでまいります。

会長 岡島 哲也





55th anniversary
結成55周年記念式典
高松栗林ライオンズクラブ

55周年記念実行委員長 山下 和彦

姉妹クラブの島原、岡山後楽、金沢兼六、高知黒潮の4クラブとは、周年毎に、各クラブ毎に別々の会場（メンバーのお店）で歓迎会を行っておりましたが、佐久間勝のアイディアで我がクラブも含めて5クラブで合同歓迎会を開催致しました。司会は、各友好クラブ締結の要となった松野誠寛にお願いし、彼のアイディアで各クラブ全員の紹介のあと、各友好クラブ締結のゆかりのメンバーから友好クラブ締結までのいきさつの説明があり、なごやかな雰囲気の中、お互いに友好を深め合う、有意義な歓迎会になったことをご報告申し上げます。

式典は4月22日に高松国際ホテルで厳粛に行われましたが、濃霧で小豆島の2クラブが延着というハプニングがありました。拍手に迎えられる2クラブのメンバーから「ガバナリーになったみたいだ」と感激の言葉を頂きました。

祝宴は、当クラブ特有な華やかな祝宴となり、奥山功祝宴部長には、厚く御礼申し上げます。

合同アクティビティは、残念ながら予算の関係で流れましたが、60周

年に向け新たな積み立てをしたいと思っております。



55th anniversary
結成55周年記念例会
須崎ライオンズクラブ

会長 高橋 正

5月24日、須崎ライオンズクラブは須崎市内の「割烹 さくらや」において結成55周年記念例会を開催しました。

1963年6月に高知ライオンズクラブのスポンサーにより結成された当クラブは、周年行事も10年刻みの行事は盛大に行い、その中間の5年目の記念行事はシンプルに行おうという基本方針に基づき、今回はごく近い関係の方々をお招きして、シンプルに、須崎らしくおいしいものを食べていただくよう準備をしてみました。

記念例会では、近藤リジョン・チェアパーソンの挨拶に続き、スポンサークラブの高知ライオンズクラブの公文会長の挨拶が読み上げられ、その後記念事業として、LCIF・献眼・骨髄バンクへの拠出とともに、今年度の336-Aの合同奉仕活動である「四国子どもたちにライフジャケットを贈ろう」へも拠出したとの発表があり、記念例会は厳粛に執り行われ、ウィ・サーブのローアで盛会のうちに終了しました。

その後、懇親会に移り、須崎のおいしい魚や料理をかこんで大いに盛り

り上がり、和気藹々のうちに一日が終了しました。



15周年 結成15周年記念式典
高知とさみずライオンズクラブ

6月2日、サウスブリーズホテルにて結成15周年記念式典を開催いたしました。

式典には岡崎誠也高知市長はじめ、川辺信郎336-A地区ガバナリ、地区役員の皆様方、スポンサークラブの桜ライオンズクラブ谷村理恵会長など、県内外の多くのブラザークラブのご臨席を賜り盛会に終えましたこと、クラブメンバー一同心より深く感謝申し上げます。

クラブメンバーが団結し、本日の結成15周年を迎えることができ、記念事業として次の事業を行いました。

- * 高知県ライオンズクラブ骨髄バンク特別委員会へ支援金
- * 高知県ライオンズクラブ献眼特別委員会へ支援金
- * 四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう事業の助成
- * 高知県小児糖尿病「つぼみの会」1型糖尿病サマーキャンプ支援
- * こども食堂「ギフト」支援
- * ライオンズクエストプログラム普及推進活動
- * ライオンズクエスト支援金
- * チャイルドラインこうちへ協力金

高知県自閉症協会へ協力金
明日より20周年に向け弛まない努力を継続してまいります。



会長 池 美季

40周年 結成40周年記念大会
伊方ライオンズクラブ

初夏の装いの6月3日、伊方町民会館にて、伊方ライオンズクラブ結成40周年記念大会を開催しました。

後町洋一基隆港部会長を先頭に、1982年姉妹クラブ締結後、友好を育んできた中華民国基隆港國際獅子會24名の皆さんが会場に入場し、田中康司式典部会長の開会宣言により式典を挙行了しました。

伊方ライオンズクラブの二宮仁太大会委員長より歓迎の挨拶、河野文吉会長より台湾語を交えた挨拶の後、三好富太良記念事業部会長から40周年記念事業が発表され、河野文吉会長より記念事業の目録贈呈、伊方ライオンズ賞贈呈および感謝状贈呈を行いました。

スポンサークラブの八幡浜ライオンズクラブの野本修二朗会長、姉妹クラブの基隆港國際獅子會錢星宏會長の挨拶があり、錢星宏會長と河野文吉会長が、それぞれ記念品を交換しました。

来賓の中村時広愛媛県知事、高門清彦伊方町長、川辺信郎336-A地区ガバナリより祝辞を頂き、宇都宮永チャーターメンバーの閉会の言葉で、盛会裏の内に滞りなく記念大会

を終了しました。

会長 河野 文吉





anniversary 15
結成15周年記念式典
高松空港ライオンズクラブ

6月10日に「ザ・チェルシー」において、結成15周年記念式典及び祝宴を開催しました。浜田恵造香川県知事、大西秀人高松市長、川辺信郎地区ガバナーをはじめ多数のご来賓、そして4R・4Zのブラザークラブのメンバーの皆様など合わせて91名にご出席いただき、当クラブのメンバー25名が加わり116名が集い、盛大に式典・祝宴を開催することが出来ました。

式典では田中元会長、木村守大会委員長の感謝の挨拶、ご来賓の皆様のご祝辞、県知事からの感謝状の授与、そして交通安全への啓発事業、「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」の事業への支援、LCIFへの献金等の記念事業の発表など、粛々と進められました。

祝宴では、児童養護施設讃岐学園の児童による楽器演奏もあり、和やかな雰囲気の中で歓談し、お開きとさせていただきます。

これまで15年間にわたり活動できましたのも、皆様のご支援の賜物と、この式典を通して感謝するとともに20年周年、30年周年という節目を迎えられるよう、会員一同、地域に密

会長 **田中 元**

着した奉仕活動を続け、更なる飛躍を目指していきたいと思えます。



anniversary 55
結成55周年記念事業
阿波池田ライオンズクラブ

1962年11月に結成した阿波池田ライオンズクラブは、昨年、結成55周年を迎えた。

結成55周年記念についてクラブ内で協議した結果、記念式典などは開かず、記念事業のみを行った。

結成55周年記念事業として2月25日から3月11日にかけて三野グラウンドで「第1回阿波池田ライオンズクラブ旗争奪学童軟式野球大会」を実施した。従来の三好市と東三好町の少年野球チームが競う「三好少年野球連盟春季大会」をリニューアルした大会で、池田ケーブルテレビのへそっこニュースで放送された。

近年は少子化に伴って出場するチームが減少し、大会を運営する三好少年野球連盟の費用の負担が大きくなっていたことから優勝旗、トロフィ、盾、大会横断幕等を新調し、優勝、準優勝チームにはそれぞれ金銀メダルを贈ることにした。また、長打やファインプレーなどの個人賞にはお菓子をプレゼントした。

学童軟式野球大会は、青少年健全育成の一環として、未来のプロ野球選手を目指す子供たちの応援団としてメダルや個人賞のプレゼントを、

会長 **中村 正和**

来年度以降も継続事業として続けるつもりである。





高知レオクラブ訪問記

6 R M C ・ライオン情報・地区誌・大会参加委員

藤戸 啓朗

■レオクラブとは

レオクラブ(英 L E O C l u b)は、ライオンズクラブの青少年育成プログラムであり、地域社会の青少年に指導力(Leadership)・経験(Experience)および機会(Opportunity)を与え、個性豊かな人間に成長させるための奉仕活動を促進し、会員の間に、友情親善及び相互理解の精神を育成することを目的としている団体である。レオクラブの L E O とは前述の指導力・経験・機会の3つの頭文字を合わせた言葉であり、またラテン語でライオンを意味する。

■レオクラブに関する基本的な考え方

青少年を育成するということに基準を置くこと。そのためには、忍耐、愛情、熱情をもって臨むことが必要である。中略 また、次代のライオンズをつくるというよりも、それ以前に、よい青少年を育てるということに基準を置くべきである。

■日本で最初のレオクラブ

日本においては1968年6月に高知レオクラブが第1番目のクラブとして結成された。

(ライオンズクラブ役員必携より抜粋・編集)



高知県には「日本一」と胸を張れるものがそう多くない中において、レオクラブに関しては「高知レオクラブ」が日本で最初に結成されたということを知り、一度お話を伺いたいと思っていたところ、3月2日に同クラブがアクティビティとして「薬物乱用防止教室」を開催すると聞き、訪問することにしました。

当日、高知小学校の図書室にて、高知小学校6年生約40名を対象に、高知レオクラブの会員7名が警察の方と一緒に、講義やコントを通じて酒・タバコを含めた薬物乱用の危険

性を訴え、最後には全員で薬物乱用は「ダメ、絶対！」を唱和して終わりました。

講習を受けた児童たちは「タバコはほんとに体に悪いがや」「帰ったら、お酒を飲みすぎんようにお父さんに言おう」などの感想を口にしていました。近い年令のお兄さん、お姉さんが行う「薬物乱用防止教室」の効果てきめんで、他のクラブへも拡げたいと思いました。

《高知レオクラブの会長、

濱吉明日香さん(高一)の話》

当レオクラブは高知中学1年生から高知高校3年生で構成されていて、現在9名の会員がいます。

活動は、最寄りの駅であるJR旭駅の清掃を月1回程度行うことと老人福祉施設「福寿園」の入所者の方にお花を届けること、それに今回の「薬物乱用防止教室」の開催です。

こういう奉仕活動をしてみて、特に駅の清掃などでは、みんなが気持ちよく使えるように、自らが進んでやろうという考え方が身に着的だと思います。本当にやってよかったと思いますし、卒業しても奉仕活動を続けたいと思います。

最後に、親クラブの高知ライオンズクラブの皆さんは、いつも私たちにやさしくしてくれるのでありがたいと思っています。

《スポンサークラブ 高知ライオンズクラブ公文克企会長の話》

私たち高知ライオンズクラブとしては、レオクラブの活動を通じて青少年が社会に貢献できるように育みたいと考えていますし、そのためにクラブをあげて支援していきたいと思っています。

レオクラブ事業にかかる費用は年間28万円ですが、青少年の育成にとどまらず、若い人を中心にライオンズクラブの活動を広く知っていただき、底辺の拡大につなげることができると考えていますので、レオクラブ事業は有益だと思っています。

レオクラブの卒業生が社会人になって、ライオンズクラブの会員になってくれれば、こんなうれしいことはありません。





西条石鎚レオクラブ結成4周年を迎えて

西条石鎚ライオンズクラブ
会長 山路 健

平成27年2月17日、国際本部に結成報告書を提出し、西条石鎚レオクラブが発足しました。現在は社会人6名、高校生3名、中学生2名の計11名で活動しています。

和気藹々とした雰囲気の中、社会人と学生の垣根を越えて意見を交わし、地元・西条市の活性化を目指し取り組んでいます。これまでの事業をご紹介します。

【特別養護老人ホーム訪問】

利用者の方々と一緒に体を動かしながら童謡を歌い、秋の吊るし飾りを制作しました。初めは戸惑われている方が多かったのですが、次第に笑顔が見られるようになり、大喜びで下さいました。

全員で寄り添い、サポートする大切さを学びました。

【熊本復興支援金獲得並びに資金獲得事業】

企画当初は不安もありましたが、協議を重ね、品物の手配・設営を自分達の手でやり遂げ、無事に完売。募金箱にも、たくさんの方が協力して下さいました。目標達成の難しさを知る貴重な経験となり、地元企業等の協力も得られ、コミュニティの



広がりが感じられました。

また、スポンサークラブの事業や地元イベントへの協力、AED講習受講、昨年行われた「336-A地区2R-4Z合同アクティビティ・遍路道清掃IN西条」にも参加しました。

レオクラブのメンバーは社会経験が少ないですが、職場や学校・家庭では得られない経験を通して多くの学びを得ることができています。

また活動の成果は、対外的なものだけではありません。世代の近い若者が他会員との交流を通し、繋がりを得ています。若者目線で社会を見て、互いに知恵を出し合い、協力し、実行する。その中で戸惑い、考えた経験がやりに繋がりに繋がり、自己を成

長させるのだと感じています。

これからも、若者の集まるサードプレイスとして機能し、社会の課題に若者なりのアプローチを続けていきたいと思っています。

《学生メンバーの感想》

—老人ホームに行つて、高齢者との会話の大変さや話せた時の楽しさがとても印象に残りました—

—印象に残ったことは、老人ホーム訪問です。自分自身もレオで初めての活動で緊張したけれど、自分達で企画し、それを実行する楽しさを知り、また、年配者とのコミュニケーションも勉強になりました。これからは、もっと幅広い世代の人達と様々な活動を通して、コミュニケーションをとっていきたくです—

—一番心に残っているアクティビティは、遍路道清掃です。「四国遍路」の世界遺産登録を目指す動きが進められている今、改めて遍路道の壮大さを実感しました。世界の人々が信仰を深め功徳を積むための修行の旅をする遍路道を清掃することにより、更に素晴らしい街づくりが出来ればいいと思います—

《スポンサークラブ・西条石鎚ライオンズクラブ 会長 山路 健》

3年前に当クラブに誕生したレオクラブの活動ぶりを見ておりますと、

将来のライオンズクラブの発展に最も欠かすことのできない組織だと実感します。残念なことに、わがレオクラブに続いて愛媛県内から新たなレオクラブが生まれず、より広範に連携した活動ができない悩みがあります。レオクラブの認知度を高めていくためにも、ぜひ県内のライオンズクラブから第二、第三のレオクラブが早期に発足することを期待しています。





高松しらうめレオクラブの 九州北部豪雨災害募金活動

高松フェニックスライオンズクラブ

青少年・レオ委員長

出射 隆文



約13万円の募金が集まりました。

その募金は、福岡県でレオクラブを有している「福岡赤坂ライオンズクラブ」を通して福岡県の被災地に寄付をし、その寄付金は10月26日に、福岡赤坂ライオンズクラブとレオクラブから小川福岡県知事に手渡され、その様子はスマホを通して高松養護学校にも流され、福岡県知事から高松しらうめレオクラブのメンバーに対して、お礼の言葉をいただきました。

2017年6月27日に、肢体不自由の特別支援学校である香川県立高松養護学校高等部の生徒7人が中心となって結成された「高松しらうめレオクラブ」ですが、7月31日に、九州北部豪雨災害の被災地を支援するため、交流のある高松東高校・高松西高校の生徒と一緒に、高松市の商店街で募金活動をしました。スポンサークラブである高松フェニックスライオンズクラブも現地で募金に参加しました。

炎天下の中12時から13時までの1時間、レオクラブのメンバーは体調に注意しながら募金の呼びかけをし、

また、12月6日には、募金活動をしたレオクラブのメンバーに直接お礼の気持ちを伝えるために、福岡赤坂ライオンズクラブとレオクラブから8人が高松養護学校を訪れてくれました。

また、福岡赤坂レオクラブのメンバー4人と、これからのレオクラブの活動について意見交換をしました。相手のクラブは大学生を中心として3年前に結成されたクラブですが、初対面の年上の先輩との話し合いで緊張気味でしたが、頑張つて質問したり意見を述べたりしていました。とても良い経験になったと思います。



レオクラブのメンバーの発案で行った募金活動ですが、ここまでの広がりになるとは予想もつきませんでした。自分たちが1時間行った募金活動が、被災者だけでなく多くの人の心に影響を与えることができるということを感じて欲しいと思いました。





松山フォーリングスレオクラブ 松山市内の4大学が集いレオクラブを結成

高松山城東ライオンズクラブ
青少年・レオ委員長 近藤 國繁

松山城東ライオンズクラブがスポンサーとして『松山フォーリングスレオクラブ』の名称で336-A地区で7番目のレオクラブが結成され、6月16日、認証状伝達式が松山市内のホテルマイステイズ松山で行われました。

ライオンズ国際協会が100周年という記念すべき年に当たり、次の100年に向けて若いライオンズレオクラブが結成できましたことは意義深いものがあります。私達はこのレオクラブを結成するに当たり、クラブ内で様々な議論や検討を行ってきました。まず、クラブメンバーのレオクラブに関する勉強会から始めました。先進のクラブの方々にご来県願ってお話を伺い、また参考資料等を取り揃えて、様々な勉強会を行ってきました。

今、地方においてライオンズマンの減少、高齢化等色々な問題を抱えて、厳しいクラブ運営が多数見られます。我がクラブも同様です。そこで私達は次の世代を担う若いライオンズマンを増やそうと考えて、松山市に設置されている高等学校や大学

の学生に働きかけを行ってみる事としました。

まず初めに高等学校との折衝に入りました。昨年の9月ころ私学に赴き校長、教頭、事務長などとライオンズクラブやレオクラブの事などを数日間にわたり、運営などについて話し合いを行いました。しかし、12月頃になって、学校側から断念したいとの申し出があり、この高校での結成を断念いたしました。他にも2、3の高校にアプローチをしましたが結成するには至りませんでした。

次に大学との話し合いを進めていく内『聖カタリナ大学』とのコネクションが取れ、レオクラブ結成に向けての話し合いに入りました。昨年の12月中旬でした。この大学には、すでに学内にボランティアサークル部があり、学生の自主運営で地域のボランティアやイベントを行い、活発に活動をしていました。ライオンズのことを話しますと非常によくご理解いただき、大学側からも学生側からもうがより一層自分達の活動に信用性と深みが出てくる、とのお話を頂き、

早速レオクラブ結成に向けての取り組みを始めました。

その途中、思わぬ吉報が寄せられました。松山市に設置されている4つの大学『愛媛大学』『松山大学』『東雲大学』『聖カタリナ大学』の中に学生達で作っているフォーリングスクラブというサークルがあり、奉仕活動は元より様々な活動をしておりました。そのサークルからお話を頂き、レオクラブ結成に向けトントン拍子に事が運び、4大学の学生が主催する『松山フォーリングスレオクラブ』が30名のメンバーをもってスタートする運びとなりました。初年度の大

学側の顧問には、松山大学人文学部の山田富秋教授にお引き受けいただきました。

私達はレオクラブメンバーの指導、育成、また大学との連携により、より多くのライオンズメンバーの卵を世に送り出していく努力を続けて参ります。『リーダーシップ』『エクスペリエンス』『オペティニティー』の指導プログラムを主体に勉強を重ねたメンバーが4年ごとに社会に入つて参ります。必ずや大学時に学んだライオンズを社会の中に広めていただける事を信じ、結びと致します。



日本骨髄バンクと 高知黒潮ライオンズクラブのかかわり



1. 高知県骨髄バンク推進協議会

「高知県骨髄バンク推進協議会」（以下協議会）は、日本骨髄バンクの事業を支援する組織として、1992年4月、高知県下全ライオンズクラブを母体として設立されました。以来25年間、高知県下のライオンズクラブからの継続的な寄付と一般市民からの寄付によって「協議会」は運営されています。

クラブの事業資金から一括して支出されていますので、自分達の寄付で「協議会」が運営されていることを認識されていない方も多いと思います。

ますが、クラブ員全員の方が1人当たり月100円、年間1200円を支出しています。全国の道府県に日本骨髄バンクを支援する組織がありますが、高知県のように、ライオンズクラブが全面的にバックアップしている「協議会」は、全国的に見ても大変特異な例だと思います。

「協議会」の初代会長は、元高知ライオンズクラブの故下司孝磨さんでした。ライオンズクラブ活動に非常に熱心な方で、この「協議会」の設立に尽力され、初代会長に就かれました。第2代会長は高知黒潮ライオンズクラブの宮地健三さんが務められました。第3代は皆さんご存知のように、2005年4月より2017年3月まで12年間にわたり依光聖一さんが務められ、4月より第4代会長として溝渕 樹さんが引き継がれました。

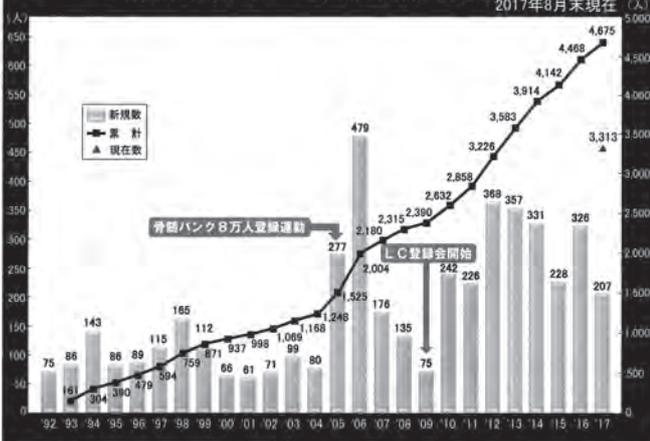
第2代宮地会長までの13年間は、「協議会」の活動は年1回県下で骨髄移植、骨髄バンクについて県民の理解と協力を求める「骨髄移植講演会」が唯一、主たる活動でした。高知黒潮ライオンズクラブと「協議会」のかかわりも、この時までには、あま

り無かつたように思います。

「協議会」と高知黒潮ライオンズクラブとの結びつき、かかわりが深くなったのは、医師である依光さんが「協議会」の第3代会長に就任され、高知黒潮ライオンズクラブに入会されてからです。以来、高知黒潮ライオンズクラブのメンバーの説明員資格取得、ドナー登録説明会実施、助成制度の創設を通じて、結びつきが確

高知黒潮ライオンズクラブ
元会長 松石 高雄

高知県のドナー登録者数の推移



2. ドナー登録会の実施

高知黒潮ライオンズクラブと日本骨髄バンクのかかわりが特に深くなったのは、高知黒潮ライオンズクラブのメンバーが説明員の資格を得、ドナー登録説明会を始めて以降です。

2009年9月、メンバー12名が説明員の資格を取得し、イオンモール高知で集団登録会を開始しました。右も左もわからず、見よう見まねでの第1回登録会でしたが、地区普及員の方の協力を得て、21名の登録をいただきました。

翌2010年から献血併行型登録会を開始しました。集団登録会では、イオンモールの中で、買物を兼ねている人と呼びかけて、説明員のテーブルまで来てもらうのが大変な苦労です。100人に声をかけて1〜2人の割合です。気持が折れず、献血併行型の場合、献血に来た



人に「ドナー登録と一緒にお願いできませんか」と声かけますので、幾分、楽です。慣れるまで血液センターの受付業務と小さなチグハグもありましたが、最近ではスムーズに進行しています。献血奉仕と同時に行うことにより、登録回数も急激に増えました。

2011年からは高知桜、土佐山田、南国の各ライオンズクラブ会員も説明員の資格を取得され、高知黒潮ライオンズクラブのドナー登録活動が他のクラブにも波及し、活動の輪が広がってゆきます。昨年からは、須崎ライオンズクラブにも広がりました。高知黒潮ライオンズクラブメンバーの説明員数も先月2名増えて、2017年9月現在、23名が資格を取得しています。

そして、2012年8月からは、24時間TVに参加し「イオンモールやまもも、日高村保健センター、3ヶ所同時開催ドナー登録会」が、夏の恒例行事になりました。同時開催で50名以上の登録をいただいています。1日に50名以上の登録があり「高知で何があったのか？」と広島島のセンターから驚きの問い合わせがあったそうです。

以上のように、2009年以降10年近く、一過性で終わらず、継続的な高知黒潮ライオンズクラブを中心としたライオンズクラブの活動で、高知県内のドナー登録者数は達成されています。2017年8月末現在、

新規登録者数207名、残り4ヶ月で100名以上確保し、300名の大台を達成したいと頑張っているところ。都道府県別ドナー登録者数も、対象人口千人当り全国平均8・40に対し、高知県は3ポイント以上高く11・42、全国順位で12番目、四国4県ではトップです。

この2〜3年は、県内で年45〜46回の登録会が開かれ、高知黒潮ライオンズクラブが36〜37回かかわっており、「高知県のドナー登録は高知黒潮ライオンズクラブが担っている」と言っても過言ではないと思います。

ドナー登録活動は、高知黒潮ライオンズクラブの最重要アクティビティになりました。誇らしいことです。

3. ドナー助成制度

ドナー登録は2ccの採血で完了ですが、ドナーになりますと、通常3泊4日の入院を含め1週間以上を要します。現代の社会人にとって1週間以上の休業は大変な負担です。少しでもドナーの負担を軽くして、ドナーが提供しやすい社会的環境を整備しようと、高知黒潮ライオンズクラブでは「ドナー助成制度」にも力を注いでいます。

2008年メンバーの21事業所が「骨髓ドナー休暇制度」を採用しました。高知県では初めてのことです。事業所の社員が、ドナーに選定され

た場合、通常の年次休暇以外に「ドナー休暇」を付与するものです。

そして、2015年6月、「高知黒潮ライオンズクラブ骨髓・末梢血幹細胞提供ドナー基金」を創設しました。県内で造血幹細胞を提供いただいたドナーに一律7万円を支給する、全国でも民間初のドナー助成金制度です。新聞、TVでも大きく取り上げられました。

現在、全国で314市区町村がドナー助成制度を制定し、徐々に増えています。県内では土佐清水市が2016年4月に制定されています。本来この助成制度は各市町村が制度構築することが原則であると考えます。

そこで、2016年2月、高知黒潮ライオンズクラブは高知県健康政策部長へ、県内全市町村のドナー助

成制度の制定要請を行いました。そして、ありがたいことに、県の働きかけにより、高知市が2017年9月12日付けで、7日間限度で1日2万円のドナー助成制度を制定されました。他の県内市町村でも制定の準備がすすんでいると聞いています。一日も早く全市町村で制度化され、ドナーの負担が少しでも軽くなることを願っています。

ライオンズクラブが一番大切なことはアクティビティで、また、一番難しいのもアクティビティだと思えます。高知黒潮ライオンズクラブは、依光聖一さんのリーダーシップで、2008年より、骨髓ドナー登録活動やドナーが提供しやすい社会環境の整備など、日本骨髓バンクへの支援というすばらしいアクティビティを続けています。

2015年(平成27年)6月20日(土曜日) 社会 2 (26)





ライオンズメンバーのための

ライオンズクエスト「ライフスキル教育」プログラムセミナー

学校が変わる 先生が変わる 子どもたちが変わる

青少年・LCIF・ライオンズクエスト委員会

委員長 春木 扶佐子

336-A地区では、ライオンズクエスト事業に携わって11年目を迎え、今後、地区内でクエスト事業をより普及するためには、多くのメンバーに理解してもらうことが必要と考え、委員を中心として、四国4県でライオンズメンバー対象のセミナーを開催することになりました。

松山セミナー、高知セミナー、丸亀セミナー、徳島セミナーと4回のセミナーを開き、プログラムの日本導入から関わっている北山敏和先生を講師にお迎えしました。

北山先生から「このプログラムには、学校が求めているもの、先生が求めているものがたくさん詰まっています。先生方の経験と熱意にプログラムが加われば、きっと子供たちの笑顔があふれるクラスが実現すると思います」とメッセージをいただきました。

最後に、プログラムの普及活動に組織を挙げて取り組んでくださっていますライオンズクラブメンバーの皆さまに心から感謝申し上げます。

松山セミナー報告

4月14日 愛媛県立武道館(松山市)

参加者58名 参加クラブ27クラブ

青少年・LCIF・ライオンズクエスト委員会

1R 盛重 信二

1・2・3R合同のライオンズクエストセミナーが開催されました。まず、北山敏和先生からライオンズクエストとはどのような教育プログラムなのかをご講義いただきました。

ライオンズクエストの子供たちに対するかわり方の説明のあと「大人から見た今の子供の物足らないところ」を10グループに分かれてディスカッションを行い、グループごとに発表をしていただきました。

協調性がない、挨拶ができない、我慢ができないなど様々な意見が出されましたが、最終的にはその子供達を指導するのは我々大人であり、しっかりと指導できる大人にならなくてはいけないという結論に達しました。

それを手助けしてくれるのがライオンズクエストであり、1Rではなかなか浸透しておりませんが、今後とも普及に向けた活動を続けていきたいと思っております。

青少年・LCIF・ライオンズクエスト委員会

2R 高原 章

ライオンズクエストについて何度かセミナーを受講した自分自身でも、まだまだうまく説明ができないのが残念です。ライフスキル教育についての説明は、少し理解できた気がしますが、それが子供たちにどう実践され、どう影響してゆき、どのような効果が表れているのか説明できません。

ただ、グループに分かれて、初対面の他のリジョンの方々々とテーマについての議論をしたり、意見を交換したりするなかで、お互い理解しあえたり、親近感がうまれたりー大人であれば食事をしたり、お酒を飲んだりすればできますが、子供の世界の中で子供同士がコミュニケーションを取り合うーそんな場所を提供できるプログラムになっているのかなと感じました。

セミナーの最後に、10グループそれぞれのコメントーターによる発表が行われました。各々、ライオンズクラブでの役割は違っていますが、来期にむけての、前向きな意気込みをうかがえるような発表で締めくくることができました。

青少年・LCIF・ライオンズクエスト委員会

3R 谷野 文子

参加クラブは1R14クラブ・2R9クラブ・3R4クラブでした。3R



丸亀セミナー



松山セミナー



徳島セミナー



高知セミナー

からの参加が少なく、リジョン単独のセミナー開催には難さを感じました。

講師の北山敏和先生は「今どきの子供の欠けている面」をテーマに取り上げ、グループごとに話し合いを行いました。司会・発表者・記録者・用紙係と担当を決めて意見を出し合います。例えば自主性が無い・自己中心的・依存性が強い・協調性がない・コミュニケーションに欠ける・感謝の気持ちの希薄さ等が上げられ、それらを話し合い、グループでまとめて発表するという作業です。

一人一役で、それぞれ役割を持たせることにより、自分の問題として考える力を養うことが重要だと感じました。頭で考える能力、行動することの能力、それらがライフスキルだと考えます。テーマについても、現在のことはすぐ目につくが、過去はどうであったか、親・教師・地域の人々が日々の生活の中で身に着けることの大切さを学びました。

高知セミナー報告

4月21日 ちより街テラス (高知市)
参加者32名 参加クラブ13クラブ

青少年・LCIF・ライオンズクエスト委員

6R 齋藤 明子

高知セミナーは主に現在と次期の会長・幹事、地区役員・委員と少人

数でしたが、クラブで活動の中心となるメンバーたちの参加が場の雰囲気の良い方向へ導いてくれました。

北山講師の講義のあとに、グループワークシヨップを行いました。ワークシヨップの進め方や、発表の様子は初めての参加とは思えぬほど素晴らしい内容ばかりで、参加者の日頃の意識の高さに頭の下がる思いでした。

セミナー後に感想を聞く機会が得られ「この活動は単一クラブでできる事ではない、みんなでもっと協力していくべきだ」「セミナーに参加するまでは全くどんなものかわからなかったが理解でき、とてもよかった」など、実りあるセミナーであったことを実感し、次のステップへと繋げることが出来たと嬉しく感じられました。

それぞれのクラブの青少年活動の延長線上を意識し「スキル」を深めていくことが次世代に生きる子供達への力になるのではないかと思います。

青少年・LCIF・ライオンズクエスト委員

7R 西内 康志

北山先生のおかげでやすくと丁寧な講義は、ユーモアを交えて私たちをライオンズクエストの世界に引き入れて頂きました。

まず5、6名の班に分かれ、班単位で話し合いをし、発表をする人、司会をする人など役割分担をし楽しく行いましたが、この間に団結力、結束力

が芽生え、発表することに夢中になっていく自分がありました。

別の班の発表を聞き、素晴らしいと感じ、説得力のある話に素直に耳をかたむけ、色々な議論をしていく中で、ライオンズクエストプログラムをもっと多くのメンバーに知って頂き、せめてセミナーだけでも受けて頂き、ライオンズクエストの素晴らしさに気付いて青少年の健全育成にもっと役立たせねばならないと深く感じました。

約2時間と短いセミナーではありましたが、ライオンズクエストプログラムをもっと広げていき、メジャーなものにするのが私たちライオンズクラブの一つの役割でないかと感じました。

丸亀セミナー報告

6月9日 アイレックス (丸亀市)
参加者42名 参加クラブ18クラブ

青少年・LCIF・ライオンズクエスト委員

4R 開 靖昭

今年初めてクラブ会員対象のセミナーを開くと春木委員長から話が出て、香川県は丸亀市で開催しました。

講師は和歌山県出身の北山敏和先生です。セミナーは、1テーブル6人で7テーブルの合計42名が受講し、北山先生が宿題を出し、各テーブルの同士で話し合い、そして北山先生が答えてくれました。

初めは小・中学生に出来ること。携帯電話をしながら自転車に乗り、前を見ていないマナーの悪い話。子供に話しても返事が返ってこない。

北山先生の話では、子供の行動のありかた。子供の能力、他の者と係わりたがらない自分勝手な行動をする。コミュニケーションと対人関係。

ボランティアとは自分の好きなもの、私としては会員の皆様にもセミナーを聞きに来てもらい判断をするしかないと思っています。

青少年・LCIF・ライオンズクエスト委員

5 R 大浦 宏之

今までのセミナーは、学校の教職員を対象に開催されてきました。ーこんなクラスにしたい・こんな生徒にしたい・こんな学校にしたいー3段論法で「先生が変われば、子どもたちが変わる。そして学校が変わる」という事で期待をし、おおいに成果をあげてきました。「麻薬はダメ、たばこはダメ、暴力はダメ」という否定的教育から「自分の長所を生かそう、良いコミュニケーションを作るには」という肯定的教育により子どもたちの自尊心を育てる事を目指してきたと思います。

今回のセミナーは、ライオンズのメンバーを対象に実施しました。私自身、ライオンズクエストについて耳にしてきましたが、実際に参加した経

験はありませんでした。

「百聞は一見に如かず」で、初めての試みに期待と不安が交錯していましたが、参加者から「この経験は、これからの日常生活やクラブ活動に必ず役立つものだと思います」と、力強い声が聞こえてきました。

次年度のセミナーには、各クラブから沢山のメンバーが参加されて、有意義な時間になることを期待しております。

ーメンバーが変われば、クラブが変わる、そして地域が変わるー

徳島セミナー報告

6月10日 サンシャイン徳島(徳島市) 参加者40名 参加クラブ18クラブ

青少年・LCIF・ライオンズクエスト委員

8 R 片山 毅

書籍や資料から感じる事が出来なかつた「ライオンズクエスト」を、体感できたセミナーであった。

人間の「能力」を二つに分けてとらえると、「考える、覚える、理解する、わかるなど『頭の中で考える力』アカデミック(認知的領域)スキル」と「考える力をもとに『生活の中で行動する力』ライフスキル」がある。

スキルとは、訓練を通じて身につけた能力のことで、技能とほぼ同義。

今どきの子どもに欠けている点のテーマで発表された点は、自分をコントロールする力や他者と関わる力など「ライフスキル」に関するものであり、だからこそ子どもたちが訓練をする場が必要である。

セミナー最後に「能力(スキル)を使って生活(ライフ)向上!」のテーマで、各班のメンバーがグループ内で、特技や得意とする点を発表し、それを活かした「アクト」を各班が発表した。短い時間内での討議であったが、個性的アクトの提案には大変驚いた。これもセミナー受講の効果の表れだと感じた。

プログラムクラブで実施するにあたっては、まだまだ、理解しなければならぬ点も多々あるが、今回のセミナーで体験したことを、今後のライオンズクエスト普及活動やクラブのアクティビティ、自分の人生に活かしていきたい。

青少年・LCIF・ライオンズクエスト委員

9 R 田村 廣之

ライオンズメンバーのためにライオンズクエスト「ライフスキル教育」プログラム徳島セミナーが開かれ参加しました。

私の当日の役目は、講師紹介だけでなく気持ちで参加しました。講師の北山先生は長い講演をすることもなく、

6人ずつのグループにより、司会・記録・発表・準備・コメントのメンバー構成に振り分け、テーマは「今の子どもたちに欠けていること」をまず個人で考え、グループで検討し、意見をとりまとめ発表しました。北山先生から「ライフスキルとは、子供達が生活の中で行動する力」と説明を受けました。時間がたつのも忘れ、セミナーが終わりました。

私は1年間地区委員をしましたが、ワークショップのことを聞いたことはありませんでした。

今回、セミナーに参加して、ライオンズメンバーのためのライオンズクエストセミナーをもっと開催して頂き、一人でも多くのライオンズメンバーが参加し、関心を持つことが大切だと痛感させられました。

私の思いは、ライオンズクエスト・青少年事業で少しでも子ども達に夢と希望を与えられることを、心より願っています。



物故会員

謹んでお悔やみ申し上げます

①氏名・享年 ②所属LC ③入会年月日 ④没年月日



①宮田 章(64歳)
②5 R - 1 Z (丸亀)
③1994年8月21日
④2018年3月19日



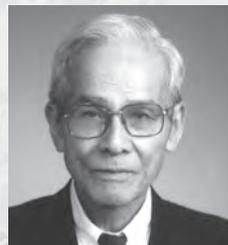
①大東 美弘(70歳)
②8 R - 2 Z (徳島吉野川)
③1991年11月2日
④2018年3月17日



①羽浦 英雄(89歳)
②3 R - 1 Z (野村)
③1990年4月19日
④2018年3月6日



①別宮 仁(49歳)
②3 R - 1 Z (宇和)
③2015年3月26日
④2018年3月5日



①成松 久男(96歳)
②2 R - 2 Z (今治)
③1967年10月21日
④2017年9月29日



①三木 良彦(81歳)
②4 R - 1 Z (小豆島)
③1966年11月3日
④2018年4月17日



①渡部 玲子(86歳)
②1 R - 1 Z (松山つばき)
③1991年12月6日
④2018年4月7日



①小原 隆三(70歳)
②5 R - 2 Z (多度津)
③2001年10月3日
④2018年4月14日



①亀田 任弘(85歳)
②4 R - 2 Z (高松東)
③2001年7月17日
④2018年3月28日



①吉岡 勝利(73歳)
②3 R - 1 Z (内子)
③2018年1月11日
④2018年3月26日



①阿部 詩朗(69歳)
②9 R - 1 Z (徳島眉山)
③1980年11月1日
④2018年5月29日



①清水 俊三(77歳)
②3 R - 2 Z (八幡浜みなと)
③1983年5月7日
④2018年5月23日



①溝渕 邦也(42歳)
②5 R - 1 Z (坂出白峰)
③2015年10月1日
④2018年4月22日

編集後記

▼アワードの「マスコミ報道優秀賞 金賞」に高知ライオンズクラブを追加させていただくとともに、大会記念誌に記載できなかったことをお詫びいたします。何とか第4号まで無事に発刊できましたこと、多くの方々のご協力によるものと感謝申し上げます。(委員長 関勝美) ▼今年は本当に充実した1年でした。RCに同行した15クラブ訪問によって得た運営知識、新たな方々とのコミュニケーション、新しい方々とのコミュニケーションなどは、今後のライオンズライフに大きな力を得たと思えます。ガバナー公式訪問や分科会の取材も良い経験になりました。最後の委員会では、委員の方々と地区誌のあり方など真剣に意見交換ができ、本音で話し合うことができました。もう1年任期があれば、こんな事もあんな事もできるのと思いましたが、お世話になった皆様、本当に有難うございました。(7 R 担当 坂東伸政) ▼地区誌の編集を担当させて頂き、1年が過ぎようとしています。委員は四国各地より集まり、和気藹々とした編集会議であったように思います。また、各クラブの

ご協力により貴重な原稿をお寄せいただき、また、関委員長より「事務的にならず平易でやさしい文面に、また毎号楽しみに待ってくださる地区誌に」とのアドバイスを頂きました。特色あるアクトイビティ、周年記念大会、新会員入会の様子等々、地区誌を身近なものとして感じていただけたかなと思っています。1年間に有難うございました。(8 R 担当 北島 隆) ▼地区誌「しこく」編集は、関委員長の方針で各地区委員がガバナー公式訪問や分科会の取材をし、自分の目で見たこと感じたことを、素直に書きなさいとご指導をいただき、初めての経験をしました。他クラブの方と親しくなり、楽しいよき思い出となりました。また、各クラブより会報誌をお送りいただき、感謝するとともに各クラブの素晴らしい活動に、そして毎月の発行に感心させられました。原稿を依頼した多くの方々のご協力に「ありがとう」とお礼を述べるとともに、1年間の「しこく」のご愛読をありがとうございます。(9 R 担当 和田寿子)



第65回地区年次大会開催のご案内

LIONS CLUBS
INTERNATIONAL
DIST.336-A
2018-2019

ライオンズクラブ国際協会336-A地区 第65回地区年次大会 **西条大会**

ガバナースローガン：No try No change! ガバナーキーワード：「Wa(和)」

2019年4月6日(土) 7日(日) 愛媛県西条市



ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区
2018-2019年度 道前キャビネット事務局

愛媛県西条市三津屋南 10-20 通所介護センターまほろば 3F
TEL:0898-52-8920 FAX:0898-52-8921
E-mail dozen@lci336a.org

『花へんろ』

52番札所太山寺の御詠歌「太山へのぼれば汗のいでけれど 後の世思へば何の苦もなし」の如く、緑に覆われた参道が小高い山に向かって続き、石段を登ると堂々たる山門があり、正面に国宝に指定されている本堂がある。



49番札所浄土寺は、浄土教の先駆者空也上人ゆかりのお寺として有名。



2017～2018 ライオンズクラブ国際協会
336-A地区 徳島キャビネット事務局
〒770-0873
徳島県徳島市東沖洲1-1-4 マリンピア会館2F
Tel:088-677-9336 fax:088-677-9993
Email:tokushima336@tiara.ocn.ne.jp

ライオンズクラブ国際協会336-A地区 地区誌
第102号 No.4

発行日 平成30年6月20日
発行所 336-A地区 徳島キャビネット事務局
発行人 川辺信郎
編集 MC・ライオンズ情報・地区誌・大会参加委員会
印刷 株式会社印刷工房